

# 米に関するマンスリーレポート

(平成30年1月号)



「すぐ分かる米政策改革！」米政策の見直しについて解説する動画を公開しています！  
[http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome\\_seisaku\\_kaikaku.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_seisaku_kaikaku.html)

#### 【本資料の目的】

本レポートは、米に関する価格動向や需給動向に係るデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

#### 【利用上の注意】

1. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
2. 本レポートは、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。

農林水産省

# 今月の特集①

## 30年産から新たな米政策が始まります

- 30年産から行政による生産数量目標の配分がなくなり、農業者（産地）は主体的に需要に応じた生産・販売を行う必要があります。
- 国は引き続き、きめ細かな情報提供や水田フル活用に向けた支援を講じてまいります。

30年産以降も需要に応じた生産・販売の重要性は変わりません。

米価は産地銘柄ごとの需給バランスによって形成されており、農業者（産地）が市場動向や自らの販売実績等を踏まえ、どの作物をどれだけ生産し、誰にどのように販売するのかという戦略に基づいて主体的に取り組むことが重要です。

国や農業再生協議会が様々な取組でしっかりお支えます！！



### 【 例えば 】

- 中食・外食等の最終実需者との事前契約による安定取引
- 輸出や米粉など、新たな需要の開拓に向けた取組
- 野菜等の高収益作物、飼料用トウモロコシ等への転換
- 飼料用米等の戦略作物の本作化

それぞれが需要に応じた生産・販売を行わないと、在庫を抱え、結果的に米価が低迷することになります。



## 経営判断のための国からの情報提供や支援措置

### きめ細かい情報提供

- ✓ 全国の需給見通し（30年産生産量 735万トン（前年同））
- ✓ 各県、各地域ごとの作付動向の中間公表、マンスリーレポート
- ✓ 各産地への情報提供・意見交換

### 生産コスト低減

- ✓ 多収品種や省力栽培技術の導入
- ✓ 農業競争力強化支援法に基づく生産資材価格の引下げ
- ✓ 農地中間管理機構による担い手への農地集積や農地の大区画化

### 水田フル活用に向けた支援

- ✓ 水田活用の直接支払交付金【H30年度概算決定 3,304億円】
- ✓ 収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）や収入保険（31年～）等のセーフティネット

### 米の需要拡大

- ✓ 中食・外食等最終実需者との安定取引の推進（マッチングフェア）
- ✓ コメ海外市場拡大戦略プロジェクトによる輸出拡大
- ✓ ノングルテン表示、用途別基準設定により、米粉の利用を促進

# 今月の特集②

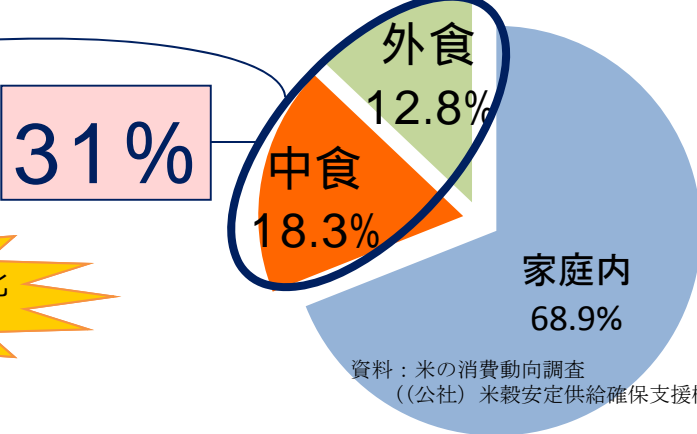
## 主食用米の需要に応じた生産

～ 外食・中食等の実需者と産地との間での安定取引の拡大が必要です～

- 外食・中食の需要は、主食用米の3割超を占めており、今後も堅調な需要が期待されます。

主食用米全体の需給はバランスしても、  
外食・中食事業者が求める  
国産米と、実際に生産される  
銘柄間にミスマッチが生  
じています。

### ■ 主食用米の消費内訳（平成28年度平均）

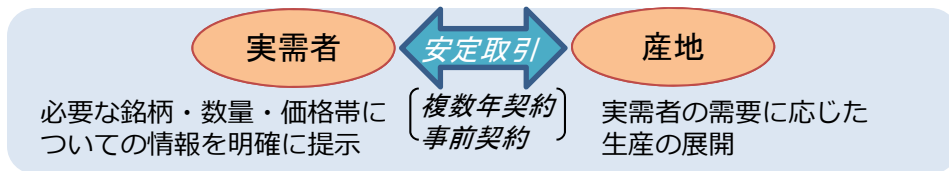


この状況を放置すると

- ・更なる国産米の需要減少の加速化
- ・家庭用ブランド銘柄の販売不振

そうさせないためには、

- 外食・中食等の実需者と産地との間で、複数年契約・事前契約などの安定取引を拡大していくことが重要です。



先進地域では、既に安定取引の構築に取り組んでいます。

- 先進地域では、高級ブランド米の販売と併せて、外食・中食向けをメインターゲットにした米の生産を推進し、安定的に中長期的に取引できる関係を構築しています。

平成27年産米の産地別事前契約比率  
(事前契約数量を農産物検査数量で除した比率)

順位	1	2	3	4	5
産地	山口	香川	宮城	宮崎	滋賀
事前契約比率	50.0%	46.7%	45.1%	43.7%	40.7%

29年1月現在

国も後押しします！

- 国としても、外食・中食との安定取引のマッチングを支援することとしています。

### 米穀周年供給・需要拡大支援事業

\* 29年度からメニュー追加

- ① 業務用等のマッチングの取組の支援
- ② 産地が自主的に行う年間を通じた安定販売、需要拡大等の取組の支援

〔業務用米取引セミナー〕



〔展示商談会〕



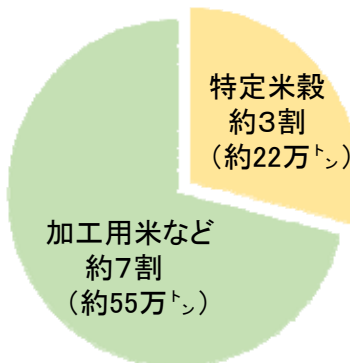
# 今月の特集③

## 加工用米の需要に応じた生産

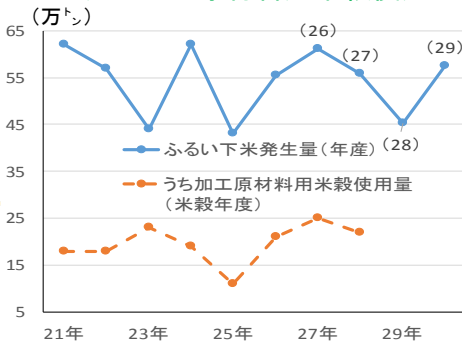
～ 産地と需要者との間での安定取引の拡大が必要です ～

- 焼酎、米菓、味噌などの加工用途における国産米の年間使用量は、約80万トンとなっており、このうち特定米穀は、約22万トンが使用されていますが、特定米穀による安定供給は困難な状況です。

■国産原料米の内訳  
(28米穀年度)



■特定米穀(ふるい下米)の発生量  
及び加工原材料用米穀使用量

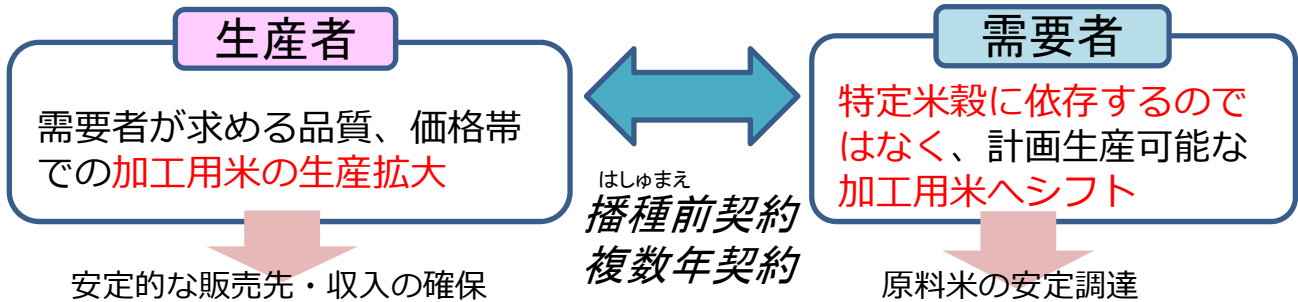


資料：作物統計（農林水産省）及び加工団体等からの聞き取り等により推計  
注1：ふるい下米は、ふるい目幅1.85mm未満の数量  
注2：米穀年度は、11月から当年10月までの1年間  
(例) 28米穀年度：27年11月から28年10月まで

需要者は、安価な米穀を求め、特定米穀を利用していますが、特定米穀の発生量は、主食用米の生産量の減少に伴い減少傾向にあることに加え、  
①作柄等により発生量が大きく変動するとともに、  
②主食用米の需給状況により加工向けの供給量も大きく変動する  
など、安定供給が難しいといった状況にあります。

【国産米年間需要量約77万トン】

- 国産米の安定調達に向けては、計画生産可能な加工用米による安定供給・安定調達体制を確立することが必要です。



- 需要に応じ主食用米と同様に加工用米等の生産振興とそのコスト削減を推進し、生産者の手取り拡大を図るため、以下の支援を行っています。

### 水田活用の直接支払交付金

- 戦略作物助成 加工用米 20,000円/10 a
- 産地交付金 各地域の裁量で活用可能な産地交付金により、収益力向上の取組を支援。

### 取組事例

- 【K県の支援】 肥料の低減化、農薬の低減化、生産性向上等の取組に支援
- 【地域による支援】 施肥の実施、流通経費の削減（県内の実需者との契約）等の取組に支援



# 今月の特集④

## コメ海外市場拡大戦略プロジェクト

(平成29年9月8日公表)

我が国のコメの消費量が毎年約8万トン減少していく中で、食料自給率・食料自給力の向上や米農家の所得向上を図っていくためには、海外市場に積極的に進出し、輸出を拡大していくことが喫緊の課題となっています。

→ コメ・コメ加工品の輸出目標「600億円」の目標年次である平成31年に向け、コメの輸出量を飛躍的に拡大するため、戦略的に輸出に取り組む関係者を特定し、それらが連携した個別具体的な取組を強力に後押しします。

### (1) 戦略的輸出事業者

平成31年に向けた飛躍的な輸出目標を掲げ、コメ輸出の戦略的な拡大に取り組む輸出事業者を「戦略的輸出事業者」として特定。



「戦略的輸出事業者」と連携して、輸出用米の安定的な生産に取り組む「戦略的輸出基地」づくりを推進

産地と事業者の結びつきの強化・拡大

「戦略的輸出事業者」と連携したプロモーション等により、輸出先国における日本産米の需要を拡大

連携したプロモーション等の実施

### (2) 戦略的輸出基地（産地）

輸出産地としての取組方針を掲げ、輸出用米の安定的な生産に取り組む産地（法人・団体）を「戦略的輸出基地」として特定。



コメ輸出の飛躍的拡大

目標：10万トン<sup>(※)</sup>

### (3) 戦略的輸出ターゲット国

「戦略的輸出事業者」が輸出を拡大する国を中心に、重点的にプロモーション等を行う「戦略的輸出ターゲット国」を特定。

→ 中国、香港、シンガポール、米国、EU等



(※) 米菓・日本酒等の原料米換算分を含む

## 「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」の参加状況について

### ○ 本プロジェクトの参加状況

平成29年12月13日時点の戦略的輸出事業者及び戦略的輸出基地の参加状況は以下のとおりとなっています。

(ア)戦略的輸出事業者 44事業者（目標数量合計 12.7万トン※）

(イ)戦略的輸出基地

- (1) 団体・法人 201産地
- (2) 都道府県単位の集荷団体等 20団体  
（(1)以外の産地も含めた取組を推進する都道府県単位の団体等）
- (3) 全国単位の集荷団体等 1団体  
（(1)、(2)以外の産地も含めた取組を推進する全国単位の団体等）

(ウ)戦略的輸出ターゲット国

戦略的輸出事業者から提出された「重点的に輸出を拡大する国・地域」は以下のとおり。  
中国、台湾、香港、マカオ、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、モンゴル、米国、カナダ、EU、スイス、オーストラリア、ロシア、中東

※輸出事業者の目標の積み上げにより、重複して計上される場合があります。

### ○ 今後の取組方針

別添リスト（以下URL参照）の**戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地との結びつけ・マッチングを推進**します。この取組を踏まえ、相互の連携先に関する情報、輸出用米生産の目標数量等を追記し、平成30年1月を目途にリストを更新します。

さらに、各戦略的輸出基地及び戦略的輸出事業者において、マッチングにおける取引情報（価格帯や輸出可能数量）に基づき、**各県・地域の水田フル活用ビジョンの検討と並行して30年産米における輸出用米の生産数量や品種等の調整を進め、取組の具体化を推進**します。

なお、引き続き、本プロジェクトに参加する輸出事業者及び産地の団体・法人を募集します。本プロジェクトへの参加を希望する輸出事業者及び産地の団体・法人は、下記URLの様式に必要事項を記載の上、以下の宛先に郵送、FAX又は電子メールにて提出してください。

「コメ輸出拡大プラン(輸出事業者用)」の提出先

100-8950  
東京都千代田区霞が関1-2-1  
農林水産省政策統括官付  
農産企画課企画班 近藤、林、福江  
E-mail:kome\_yusyutu@maff.go.jp  
TEL:03-6738-8964、FAX:03-6738-8976

「コメ輸出産地取組方針(産地の団体・法人用)」の提出先

〒100-8950  
東京都千代田区霞が関1-2-1  
農林水産省政策統括官付  
穀物課稲生産班 美保、谷口、平岡、安部  
E-mail:kome\_santi@maff.go.jp  
TEL:03-6744-2108、FAX:03-6744-2523

農林水産省ホームページで「米の輸出について」のページを開設しました！「米の輸出について」のページには、本プロジェクトの情報やコメ輸出に関する様々な情報を掲載しています。また同ページには、コメの輸出について分かりやすく説明した動画も近日公開予定です。「農林水産省ホームページ」トップページの「キーワード」にある「米の輸出」からご覧頂けます！

（農新水産省ホームページ「米の輸出について」URL）

[http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome\\_yusyutu/kome\\_yusyutu.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html)

# 目次

- 今の特集 30年産から新たな米政策が始まります  
今の特集 主食用米の需要に応じた生産  
今の特集 加工用米の需要に応じた生産  
今の特集④ コメ海外市場拡大戦略プロジェクト

I	米の需給・契約・販売	
1	米の基本指針（平成29年11月30日）	
	（1）米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針	1
	（2）平成29/30年の主食用米等の需給見通し	1
	（3）平成30/31年の主食用米等の需給見通し	2
2	米の契約・販売	
	（1）政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果	3
	（2）平成29年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成29年11月末現在）	4
	（3）産地別事前契約数量	7
II	米の在庫情報	
	（1）全国段階の民間在庫の推移（うるち米、平成23年7月末～平成29年11月末）（速報）	9
	（2）産地別民間在庫の状況（前年同月比）	11
	（3）平成28・29年産の産地別民間在庫の推移 （うるち米、平成29年7月末から平成29年11月末）（速報）	12
III	米の価格情報	
1	相対取引価格・数量	
	（1）相対取引価格（年産別）	20
	（2）価格帯別分析結果（平成29年11月）	21
	（3）相対取引価格・数量（平成29年産米、産地品種銘柄別、平成29年11月分）	22
	（4）スポット価格の状況	25
2	米の先物取引価格の推移	26
3	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成29年12月分）	27
IV	主食用米以外（輸出を含む）	
1	29年産米の作付状況	
	（1）29年産米の用途別作付面積及び生産量	29
	（2）主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）	29
	（3）新規需要米の用途別認定状況	29
2	加工用米及び新規需要米の取組状況概要	30
	（1）28米穀年度における加工原材料用米穀の使用状況（推計）	30
	（2）加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移	31
3	飼料用米の需要量	32
4	コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について	34
5	コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について	35
V	支援事業等	
	（1）水田活用の直接支払交付金	36
	（2）畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）	40
	（3）米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）	42
	（4）主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業	44
VI	消費動向	
	（1）米の消費動向（米穀機構による調査）	46
	（2）購入数量の推移（家計調査）	47
	（3）消費者物価指数の推移	48
	（4）小売物価統計の推移	49
	（5）小売価格の推移（POSデータ）	50
VII	MA米（一般・SBS）の動向	
	（1）MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	51
	（2）加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果（平成29年度）	52
	（3）SBS輸入米の見積合わせ結果（平成29年度）	52
VIII	その他	
	（1）水稻うるち玄米の農産物検査結果	53
	（2）平成29年産水稻の収穫量	54

# I 米の需給・契約・販売

## 1 米の基本指針（平成29年11月30日公表）

- 平成29年11月30日に公表しました「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」のポイントについて、ご紹介します。

### (1) 米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針

- 今回の米政策の見直しを踏まえ、「第1 米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針」に以下の記載を追加。

平成30年産以降は、平成29年6月9日に閣議決定された「未来投資戦略2017」を踏まえ、行政による都道府県別の生産数量目標等の配分は行わないこととし、国が策定する米穀の需給の見通し等の情報を踏まえつつ、生産者や集荷業者・団体が中心となって円滑に需要に応じた生産に取り組む。

### (2) 平成29/30年の主食用米等の需給見通し

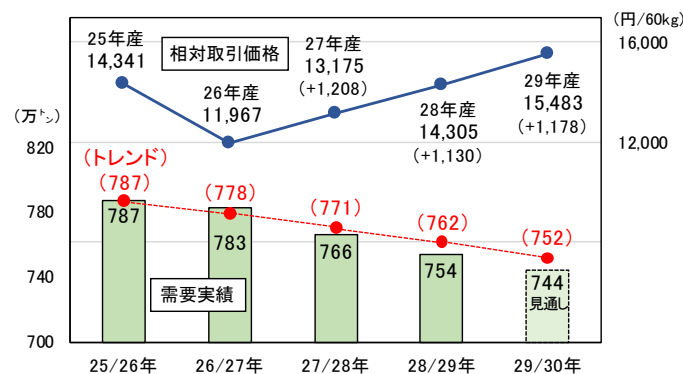
(単位:万トン)

平成29年6月末民間在庫量	A	199 (確定値)
平成29年産主食用米等生産量	B	731 (10/15現在 予想収穫量)
平成29/30年主食用米等供給量計	C = A + B	930
平成29/30年主食用米等需要量	D	<b>744</b>
平成30年6月末民間在庫量	E = C - D	187

注：ラウンドの関係で内訳と計が一致しない場合がある。

相対取引価格が上昇傾向にあることから、需要量に及ぼす影響を踏まえ、トレンドにより算出した752万トンから8万トン低い744万トンと見通す。

(参考) 相対取引価格と需要実績の推移





### (3) 平成30/31年の主食用米等の需給見通し

平成8/9年から平成29/30年までの需要実績等を用いて、トレンドで算出した742万トンと見通す。

注：平成30/31年の価格の状況については、現時点で見通すことが困難であるため、価格の変動が生じた場合の需要量への影響は見込んでいない。

(単位: 万トン)

平成30年6月末民間在庫量	A	187
平成30年産主食用米等生産量	B	735
平成30/31年主食用米等供給量計	$C = A + B$	922
平成30/31年主食用米等需要量	D	742
平成31年6月末民間在庫量	$E = C - D$	180

平成30年産米の生産量は、平成31年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準（180万トン）となるものとして、735万トンと設定。  
 (735万トンは平成29年産米の生産数量目標と同水準)

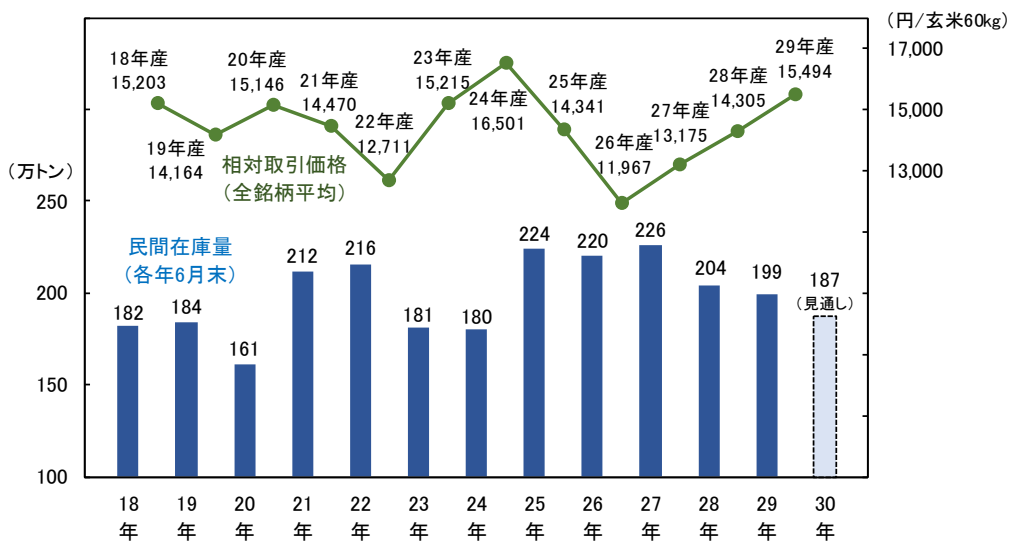
(参考) 6月末民間在庫量の推移

(単位: 万トン)

	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
在庫量	212	216	181	180	224	220	226	204	199

#### (参考) 相対取引価格と民間在庫量

- 相対取引価格は、その年々の需給状況により変動しているが、6月末における民間在庫量（生産、出荷、販売段階における在庫量）の水準もその要因の一つ。



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月（28年産は29年8月、29年産は29年11月）までの通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

## 2 米の契約・販売

### (1) 政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入札の結果

① 平成30年産備蓄米の政府買入札に係る買入予定数量及び都道府県別優先枠

② 平成29年産政府備蓄米の都道府県別優先枠及び買入札の結果

(単位:トン)

平成30年産 都道府県別優先枠	
産地	優先枠
北海道	
青森	11,006
岩手	3,686
宮城	5,011
秋田	17,353
山形	11,140
福島	12,350
茨城	469
栃木	4,888
群馬	12
埼玉	191
千葉	688
東京	
神奈川	
新潟	15,947
富山	7,001
石川	3,255
福井	2,106
山梨	
長野	514
岐阜	224
静岡	13
愛知	385
三重	272
滋賀	735
京都	
大阪	
兵庫	
奈良	
和歌山	
鳥取	345
島根	70
岡山	1,138
広島	
山口	
徳島	484
香川	
愛媛	40
高知	10
福岡	118
佐賀	211
長崎	22
熊本	212
大分	109
宮崎	
鹿児島	
沖縄	
都道府県別枠計	100,000
指定なし	100,000
合計	200,000

(単位:トン)

買入対象 米穀 の産地	平成29年産買入札の結果								29年産 落札合計 数量
	第1回 平成29年 1月31日 実施	第2回 平成29年 2月14日 実施	第3回 平成29年 2月28日 実施	第4回 平成29年 3月14日 実施	第5回 平成29年 3月28日 実施	第6回 平成29年 4月25日 実施	第7回 平成29年 5月30日 実施	第8回 平成29年 6月20日 実施	
北海道	0	0	0						0
青森	10,360	1,911	0						12,271
岩手	5,229	0	0						5,229
宮城	306	6,062	0						6,368
秋田	17,039	0	0						17,039
山形	11,753	0	0						11,753
福島	16,443	0	0						16,443
茨城	600	0	0						600
栃木	3,558	1,609	0						5,167
群馬	12	0	0						12
埼玉	156	140	0						296
千葉	748	0	0						748
東京									
神奈川									
新潟	326	17,039	0						17,365
富山	7,947	0	0						7,947
石川	86	3,262	0						3,348
福井	20	2,167	0						2,187
山梨									
長野	103	482	0						585
岐阜	10	338	0						348
静岡	0	0	20						20
愛知	0	0	493						493
三重	0	422	0						422
滋賀	21	855	0						876
京都									
大阪									
兵庫	0	0	0						0
奈良									
和歌山									
鳥取	10	525	0						535
島根	0	67	0						67
岡山	1,373	35	0						1,408
広島									
山口									
徳島	130	207	0						337
香川									
愛媛	0	51	0						51
高知	0	10	0						10
福岡	10	129	0						139
佐賀	0	0	327						327
長崎	0	18	0						18
熊本	247	0	0						247
大分	0	169	0						169
宮崎									
鹿児島									
沖縄									
都道府県別枠計	76,487	35,498	840						112,825
指定無し	71,032	8,968	3,477	160	219	427	214	406	84,903
合計	147,519	44,466	4,317	160	219	427	214	406	197,728

## (2) 平成29年産米の産地別契約・販売状況（累計・うるち米、平成29年11月末現在）

29年産米の「契約比率」及び「販売比率」（集荷数量に対する進捗状況）については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載します。

集荷・契約・販売数量（北海道から千葉まで）

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考：前年同月比 (28年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(%)	(%)	(%)
<b>北海道</b>	<b>298.5</b>	<b>234.1</b>	<b>65.6</b>	<b>+ 6%</b>	<b>▲ 6%</b>	<b>▲ 6%</b>
ななつぼし	139.0	125.9	29.9	+ 1%	+ 0%	▲ 8%
ゆめぴりか	77.3	48.0	14.2	+ 21%	▲ 16%	+ 5%
きらら397	33.9	24.4	2.6	+ 5%	▲ 10%	▲ 23%
<b>青森</b>	<b>105.0</b>	<b>78.7</b>	<b>13.3</b>	<b>▲ 7%</b>	<b>+ 3%</b>	<b>▲ 19%</b>
まっしぐら	59.5	46.5	6.4	▲ 18%	▲ 2%	▲ 30%
つがるロマン	34.8	22.4	3.7	+ 13%	+ 4%	▲ 7%
<b>岩手</b>	<b>95.5</b>	<b>95.4</b>	<b>10.4</b>	<b>▲ 17%</b>	<b>+ 1%</b>	<b>▲ 11%</b>
ひとめぼれ	71.7	72.3	7.8	▲ 20%	▲ 1%	▲ 8%
あきたこまち	13.7	13.7	0.6	▲ 11%	▲ 11%	▲ 60%
いわてっこ	2.0	2.0	0.2	▲ 29%	+ 2%	▲ 22%
<b>宮城</b>	<b>110.1</b>	<b>130.9</b>	<b>16.4</b>	<b>▲ 21%</b>	<b>+ 5%</b>	<b>▲ 5%</b>
ひとめぼれ	86.3	111.9	10.9	▲ 23%	+ 6%	▲ 12%
つや姫	10.4	8.2	2.5	▲ 11%	+ 6%	+ 1%
ササニシキ	6.8	6.3	1.6	▲ 24%	▲ 5%	+ 19%
<b>秋田</b>	<b>187.7</b>	<b>113.6</b>	<b>35.2</b>	<b>▲ 5%</b>	<b>+ 6%</b>	<b>▲ 3%</b>
あきたこまち	161.0	96.0	31.5	▲ 7%	+ 2%	▲ 4%
めんこいな	7.3	2.1	0.9	▲ 18%	▲ 38%	+ 52%
ひとめぼれ	8.7	12.2	1.4	+ 54%	+ 114%	▲ 9%
<b>山形</b>	<b>154.7</b>	<b>84.7</b>	<b>20.6</b>	<b>▲ 12%</b>	<b>+ 52%</b>	<b>+ 8%</b>
はえぬき	90.6	44.5	8.4	▲ 14%	+ 65%	+ 5%
つや姫	29.8	22.8	6.7	▲ 10%	+ 49%	+ 24%
ひとめぼれ	15.8	9.1	2.8	▲ 11%	+ 13%	+ 2%
<b>福島</b>	<b>125.2</b>	<b>59.4</b>	<b>9.9</b>	<b>▲ 11%</b>	<b>▲ 16%</b>	<b>+ 14%</b>
コシヒカリ中通り	43.8	8.3	3.7	▲ 12%	▲ 27%	+ 39%
コシヒカリ会津	32.7	31.4	2.8	▲ 16%	▲ 3%	+ 45%
コシヒカリ浜通り	6.2	3.7	0.2	+ 27%	▲ 25%	▲ 16%
ひとめぼれ	23.5	10.5	1.5	▲ 17%	▲ 23%	▲ 14%
天のつぶ	9.0	1.4	0.6	+ 10%	▲ 23%	+ 3%
<b>茨城</b>	<b>58.4</b>	<b>41.5</b>	<b>13.9</b>	<b>▲ 7%</b>	<b>▲ 23%</b>	<b>▲ 5%</b>
コシヒカリ	44.6	32.1	8.5	▲ 9%	▲ 23%	+ 1%
あきたこまち	8.5	6.6	4.6	+ 2%	▲ 30%	▲ 14%
ゆめひたち	0.2	0.0	0.0	▲ 63%	▲ 77%	▲ 91%
<b>栃木</b>	<b>108.3</b>	<b>73.6</b>	<b>10.0</b>	<b>▲ 16%</b>	<b>▲ 13%</b>	<b>▲ 4%</b>
コシヒカリ	88.9	65.2	7.5	▲ 20%	▲ 14%	▲ 6%
あさひの夢	6.8	2.7	0.9	+ 1%	▲ 29%	▲ 3%
なすひかり	6.3	2.6	0.9	▲ 3%	+ 39%	+ 51%
<b>群馬</b>	<b>13.6</b>	<b>5.4</b>	<b>1.5</b>	<b>+ 0%</b>	<b>+ 58%</b>	<b>+ 124%</b>
あさひの夢	9.1	4.6	1.2	+ 4%	+ 89%	+ 1512%
ゆめまつり	3.3	0.4	0.2	▲ 11%	▲ 7%	+ 32%
<b>埼玉</b>	<b>17.6</b>	<b>11.5</b>	<b>2.2</b>	<b>▲ 2%</b>	<b>+ 13%</b>	<b>▲ 15%</b>
彩のかがやき	8.3	6.3	1.0	+ 0%	+ 23%	▲ 18%
コシヒカリ	6.2	3.9	1.0	▲ 8%	+ 6%	▲ 11%
彩のきずな	2.3	1.1	0.1	+ 26%	+ 21%	▲ 8%
<b>千葉</b>	<b>65.1</b>	<b>55.1</b>	<b>26.7</b>	<b>▲ 13%</b>	<b>▲ 7%</b>	<b>+ 9%</b>
コシヒカリ	32.7	27.3	11.8	▲ 22%	▲ 19%	+ 0%
ふさこがね	13.0	11.9	4.7	▲ 4%	+ 8%	+ 39%
ふさおとめ	14.9	12.6	8.5	▲ 4%	+ 2%	+ 7%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）した数量である。

5 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。

6 銘柄ごとの集荷数量、契約数量、販売数量は、当該産地の内数として掲載している。

7 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

8 「-」は、集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないものである。

9 「参考：前年同月比」で、現時点において29年産又は28年産に数量がなかった場合は、「…」としている。

集荷・契約・販売数量(東京から鳥取まで)

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考: 前年同月比 (28年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(%)	(%)	(%)
東京	-	-	-	---	---	---
神奈川	2.3	0.5	0.5	▲ 20%	▲ 1%	▲ 1%
山梨	4.4	1.0	1.0	▲ 7%	+ 10%	+ 10%
コシヒカリ	3.8	0.9	0.9	▲ 7%	+ 24%	+ 24%
あさひの夢	0.2	0.0	0.0	▲ 1%	▲ 36%	▲ 36%
長野	65.5	38.8	7.8	▲ 4%	+ 25%	▲ 3%
コシヒカリ	51.9	30.5	5.1	▲ 5%	+ 33%	▲ 7%
あきたこまち	7.4	3.7	1.1	▲ 5%	+ 4%	+ 1%
静岡	8.8	2.5	1.6	▲ 7%	+ 68%	+ 8%
コシヒカリ	5.8	2.0	1.3	▲ 4%	+ 68%	+ 10%
きぬむすめ	1.1	0.1	0.1	▲ 10%	+ 11%	+ 11%
あいちのかおり	0.9	0.1	0.1	▲ 11%	+ 22%	+ 22%
新潟	247.1	195.6	50.2	▲ 12%	+ 8%	+ 5%
コシヒカリ一般	135.6	107.3	23.5	▲ 16%	+ 3%	+ 9%
コシヒカリ魚沼	28.9	20.9	6.5	+ 16%	+ 73%	+ 27%
コシヒカリ岩船	11.2	10.1	2.4	▲ 15%	+ 2%	+ 3%
コシヒカリ佐渡	13.4	12.1	2.9	▲ 15%	▲ 5%	▲ 13%
こしいぶき	35.5	25.6	8.0	▲ 17%	▲ 9%	+ 0%
富山	89.3	60.8	17.0	▲ 18%	+ 8%	+ 5%
コシヒカリ	72.4	52.2	13.4	▲ 19%	+ 18%	+ 7%
てんたかく	7.2	4.5	2.2	▲ 22%	▲ 26%	+ 4%
石川	23.7	24.4	2.4	▲ 25%	+ 11%	+ 27%
コシヒカリ	16.1	17.7	1.2	▲ 28%	+ 14%	+ 2%
ゆめみづぼ	4.7	4.1	0.3	▲ 29%	▲ 10%	▲ 20%
福井	65.7	44.9	18.6	+ 3%	+ 49%	+ 31%
コシヒカリ	31.7	18.8	7.2	+ 3%	+ 52%	+ 41%
ハナエチゼン	18.8	13.8	8.3	▲ 3%	+ 29%	+ 13%
岐阜	18.6	18.3	4.9	▲ 22%	+ 13%	▲ 7%
ハツシモ	6.6	8.2	1.3	▲ 26%	+ 17%	+ 23%
コシヒカリ	6.4	5.3	1.5	▲ 23%	+ 28%	+ 11%
あきたこまち	1.9	1.6	1.1	▲ 4%	▲ 12%	▲ 21%
愛知	29.5	28.0	6.3	▲ 9%	+ 20%	▲ 12%
あいちのかおり	14.8	15.1	2.0	▲ 2%	+ 48%	▲ 11%
コシヒカリ	9.3	9.4	2.6	▲ 20%	▲ 4%	▲ 1%
大地の風	1.0	1.2	0.3	+ 0%	+ 124%	▲ 10%
三重	26.5	20.5	6.8	▲ 12%	+ 10%	+ 24%
コシヒカリ一般	14.0	11.7	4.1	▲ 15%	+ 11%	+ 49%
コシヒカリ伊賀	6.6	4.3	1.3	▲ 6%	+ 4%	▲ 6%
キヌヒカリ	2.1	1.2	0.3	▲ 20%	+ 41%	+ 54%
滋賀	42.9	57.3	15.3	▲ 13%	▲ 2%	+ 13%
コシヒカリ	16.9	22.4	6.4	▲ 18%	▲ 3%	+ 36%
キヌヒカリ	7.4	11.5	2.7	▲ 14%	▲ 2%	+ 2%
日本晴	3.0	5.2	0.4	▲ 25%	▲ 12%	▲ 21%
京都	9.0	9.7	2.4	+ 2%	+ 1%	+ 13%
コシヒカリ	5.8	6.2	1.5	+ 37%	+ 3%	+ 16%
キヌヒカリ	2.0	2.7	0.5	▲ 25%	+ 9%	+ 31%
大阪	-	-	-	---	---	---
兵庫	41.4	23.0	9.0	▲ 5%	+ 16%	▲ 3%
コシヒカリ	13.5	7.2	2.9	▲ 2%	+ 117%	+ 19%
ヒノヒカリ	4.2	1.5	0.4	▲ 10%	+ 79%	▲ 23%
キヌヒカリ	4.4	1.9	0.6	▲ 26%	+ 133%	▲ 9%
奈良	8.5	8.5	1.5	▲ 7%	▲ 7%	▲ 8%
ヒノヒカリ	6.6	6.6	0.8	▲ 8%	▲ 8%	▲ 28%
コシヒカリ	0.5	0.5	0.2	▲ 7%	▲ 7%	+ 44%
和歌山	1.5	1.8	0.2	▲ 25%	▲ 13%	▲ 16%
鳥取	14.0	8.7	3.6	▲ 7%	▲ 1%	▲ 20%
コシヒカリ	5.8	2.7	1.4	▲ 6%	+ 2%	▲ 6%
きぬむすめ	4.1	2.6	0.7	+ 12%	+ 3%	▲ 1%
ひとめぼれ	3.8	3.3	1.4	▲ 19%	▲ 3%	▲ 35%

集荷・契約・販売数量(島根から沖縄まで、全国計)

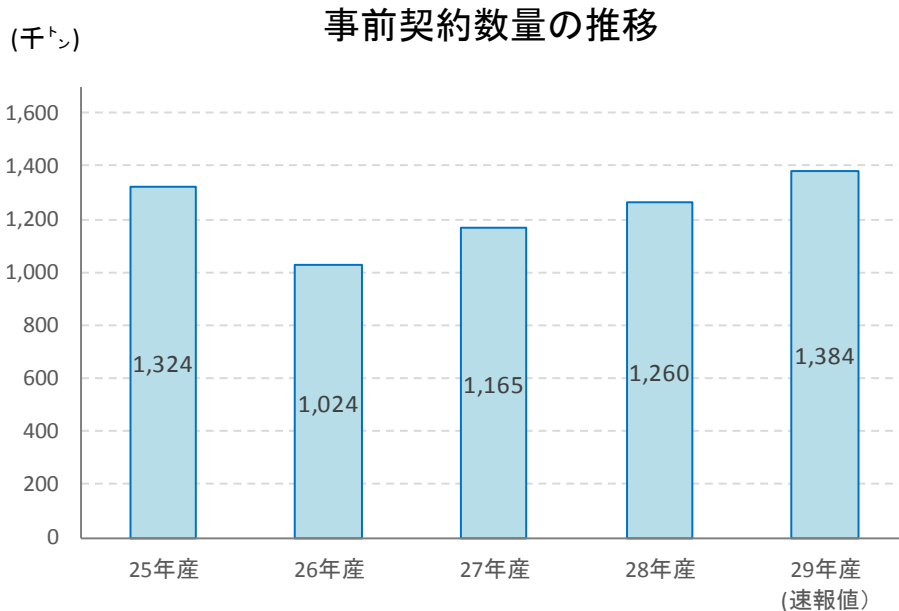
	集荷数量	契約数量	販売数量	参考: 前年同月比 (28年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(%)	(%)	(%)
<b>島 根</b>	37.0	35.2	7.2	+ 17%	+ 9%	+ 8%
コシヒカリ	17.1	17.0	3.9	+ 2%	+ 13%	+ 11%
きぬむすめ	13.1	11.6	1.5	+ 37%	+ 2%	+ 3%
つや姫	4.2	3.8	0.8	+ 51%	+ 7%	▲ 2%
<b>岡 山</b>	8.4	8.7	2.8	▲ 5%	+ 16%	+ 21%
アケボノ	0.7	0.6	0.3	▲ 12%	▲ 9%	+ 24%
あきたこまち	0.8	0.6	0.4	▲ 5%	▲ 50%	▲ 9%
ヒノヒカリ	1.1	1.2	0.2	+ 2%	+ 145%	+ 45%
<b>広 島</b>	34.0	30.1	5.8	+ 3%	+ 1%	▲ 12%
コシヒカリ	15.0	13.9	2.5	▲ 4%	▲ 3%	▲ 11%
あきろまん	3.7	2.9	0.5	+ 17%	▲ 16%	▲ 31%
ヒノヒカリ	1.1	1.0	0.2	▲ 53%	▲ 53%	▲ 33%
<b>山 口</b>	31.0	24.7	3.9	+ 3%	▲ 1%	▲ 3%
コシヒカリ	8.4	8.2	1.6	▲ 2%	+ 2%	▲ 1%
ひとめぼれ	7.7	5.4	1.2	▲ 3%	▲ 1%	▲ 6%
ヒノヒカリ	6.5	5.6	0.5	+ 3%	▲ 2%	▲ 7%
<b>徳 島</b>	5.3	2.1	1.6	▲ 11%	▲ 5%	▲ 9%
コシヒカリ	2.9	1.3	1.1	▲ 16%	▲ 9%	▲ 8%
キヌヒカリ	1.5	0.5	0.4	▲ 16%	+ 0%	▲ 1%
<b>香 川</b>	21.0	14.1	3.6	▲ 11%	+ 9%	+ 10%
ヒノヒカリ	8.2	5.9	0.8	▲ 9%	+ 6%	▲ 3%
コシヒカリ	7.3	5.5	1.8	▲ 15%	+ 25%	+ 10%
<b>愛 媛</b>	9.4	4.9	2.9	▲ 13%	+ 85%	+ 18%
コシヒカリ	4.1	1.4	1.3	▲ 5%	+ 1%	▲ 2%
ヒノヒカリ	1.2	0.3	0.3	▲ 38%	+ 4%	+ 6%
あきたこまち	1.4	0.4	0.4	▲ 17%	+ 14%	+ 14%
<b>高 知</b>	6.9	5.6	3.6	+ 5%	+ 63%	+ 13%
コシヒカリ	5.7	4.4	2.6	+ 10%	+ 87%	+ 17%
ヒノヒカリ	0.2	0.2	0.2	▲ 36%	+ 11%	+ 13%
<b>福 岡</b>	35.0	39.1	6.9	+ 20%	+ 11%	▲ 3%
夢つくし	13.8	11.9	3.2	+ 4%	+ 9%	▲ 7%
ヒノヒカリ	7.2	12.2	1.4	+ 30%	+ 19%	+ 16%
元気つくし	12.1	14.3	2.1	+ 42%	+ 8%	▲ 4%
<b>佐 賀</b>	33.3	30.9	6.5	▲ 3%	+ 7%	+ 4%
さがびより	8.1	11.1	1.1	▲ 10%	+ 15%	▲ 8%
夢しずく	11.5	8.6	2.6	+ 3%	+ 4%	+ 27%
ヒノヒカリ	8.4	7.2	0.8	▲ 2%	+ 3%	▲ 14%
<b>長 崎</b>	8.1	4.7	1.6	▲ 3%	+ 179%	+ 16%
ヒノヒカリ	2.7	1.2	0.5	▲ 4%	+ 208%	+ 38%
にこまる	2.6	1.7	0.3	+ 12%	+ 346%	▲ 1%
コシヒカリ	1.5	1.0	0.5	▲ 9%	+ 105%	+ 10%
<b>熊 本</b>	24.7	20.3	7.4	+ 0%	▲ 7%	+ 32%
ヒノヒカリ	10.0	6.5	2.1	▲ 5%	▲ 24%	+ 47%
森のくまさん	2.5	4.7	0.7	▲ 13%	+ 10%	+ 20%
コシヒカリ	6.5	5.4	3.1	+ 5%	+ 19%	+ 19%
<b>大 分</b>	9.0	5.1	1.5	▲ 18%	+ 42%	+ 21%
ヒノヒカリ	5.9	3.1	0.6	▲ 26%	+ 30%	+ 3%
ひとめぼれ	0.6	0.2	0.1	+ 14%	+ 18%	+ 14%
<b>宮 崎</b>	13.3	11.5	11.5	+ 0%	▲ 14%	+ 7%
コシヒカリ	9.9	9.9	9.9	+ 6%	+ 6%	+ 6%
ヒノヒカリ	2.7	1.0	1.0	▲ 21%	▲ 71%	+ 1%
<b>鹿児島</b>	10.7	10.7	7.7	▲ 12%	▲ 12%	+ 11%
ヒノヒカリ	3.7	3.7	1.6	▲ 29%	▲ 29%	+ 5%
あきほなみ	1.0	1.0	0.3	▲ 40%	▲ 40%	▲ 15%
コシヒカリ	3.9	3.9	3.9	+ 15%	+ 15%	+ 15%
<b>沖 縄</b>	1.5	1.5	1.4	▲ 6%	▲ 6%	+ 1%
<b>全 国 ①</b>	2,354	1,799	472	▲ 8%	+ 4%	+ 2%
参 考	前年同月(28年産)②	2,558	1,736	464		
	前年同月差(①-②)	▲ 204	63	8		



### (3) 産地別事前契約数量

- 事前契約数量は、3年続けて増加、平成29年産米では、前年産に比べ12万トン多い138万トンという水準。

〔 事前契約数量とは、複数年契約、は種前契約、収穫前契約といった米の収穫時期の前にあらかじめ契約されたもの。 〕



### 生産法人と業務用実需者との事前契約の取組事例

- 平成24年産米の価格上昇により、中食・外食事業者においては、弁当や寿司業界等のニーズに応じた値頃感のある米の確保が困難となっていたところ。
- こうした中、A県の農業生産法人では、品質（食味）、価格条件等の実需者のニーズに応じて品種を作り分けることにより、生産量の約8割を事前契約や複数年契約で安定的な取引を実現。
- 例えば、当該農業生産法人は、炊飯事業者との取引において、希望のあった品種を一定の数量、価格で事前契約を行っており、翌年産米の取引では、前年の10倍の数量契約を締結し、安定した品質の米を納入。現在まで契約数量の全てが納入済といった状況。価格は、生産コストや流通コスト等を踏まえた再生産可能な価格を基本に実需者と協議して決定。

#### 農業生産法人

- 経営安定のため、事前契約率を高めたい。
- 販売先だけでなく、事前に価格が決まっているのは生産者にとってありがたい。
- 概ね年内中に引き取ってくれるので余計なコスト負担がない。

契約

双方がウィンウィンの取引に！

#### 炊飯事業者

- 安定的な数量の確保。
- 食味の良さと品質のバラつきのなさを実感。
- 品種に応じて白飯や酢飯に使い分けている。
- 業務用といっても安ければいいということではなく、一定の価格で安定取引ができる。

## 産地別事前契約及び複数年契約の状況

29年産米の「事前契約比率」（集荷数量に対する事前契約数量の比率）については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載します。

（単位：千玄米<sup>ト</sup>）

産地	平成28年産					平成29年産（平成29年11月末現在）	
	集荷数量 ①	うち事前契約 ②	事前契約比率 ②/①	うち複数年契約 ③	複数年契約比率 ③/①	集荷数量 〔平成29年11月末時点〕	事前契約数量
北海道	358.7	169.6	47%	43.4	12%	298.5	183.1
青森	140.6	45.1	32%	32.9	23%	105.0	55.2
岩手	140.0	91.1	65%	84.7	61%	95.5	93.0
宮城	181.0	112.0	62%	84.5	47%	110.1	124.2
秋田	271.2	83.2	31%	57.4	21%	187.7	90.5
山形	221.2	52.3	24%	1.5	1%	154.7	72.6
福島	169.9	52.8	31%	27.0	16%	125.2	47.6
茨城	77.7	27.6	36%	-	-	58.4	24.5
栃木	141.6	60.3	43%	49.5	35%	108.3	66.3
群馬	21.9	-	-	-	-	13.6	0.1
埼玉	22.3	8.2	37%	-	-	17.6	8.2
千葉	79.7	34.0	43%	2.2	3%	65.1	27.6
東京	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2.9	-	-	-	-	2.3	-
山梨	6.3	-	-	-	-	4.4	-
長野	72.5	26.3	36%	23.7	33%	65.5	27.4
静岡	7.2	-	-	-	-	8.8	2.5
新潟	285.2	141.3	50%	87.4	31%	247.1	166.1
富山	111.6	43.7	39%	-	-	89.3	46.1
石川	33.9	20.1	59%	1.6	5%	23.7	23.9
福井	65.2	6.8	10%	6.8	10%	65.7	6.8
岐阜	27.5	12.0	44%	-	-	18.6	15.1
愛知	37.3	15.1	40%	-	-	29.5	14.5
三重	31.9	17.7	56%	-	-	26.5	19.5
滋賀	65.6	46.8	71%	36.0	55%	42.9	49.0
京都	14.4	8.0	55%	0.3	2%	9.0	8.0
大阪	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	41.0	-	-	-	-	41.4	10.0
奈良	9.2	-	-	-	-	8.5	-
和歌山	2.1	1.7	83%	-	-	1.5	1.8
鳥取	22.2	6.0	27%	-	-	14.0	6.1
島根	39.4	31.9	81%	0.8	2%	37.0	35.0
岡山	15.0	-	-	-	-	8.4	-
広島	33.7	26.6	79%	2.0	6%	34.0	27.3
山口	32.0	24.3	76%	0.6	2%	31.0	24.4
徳島	6.1	-	-	-	-	5.3	0.9
香川	26.7	12.9	48%	-	-	21.0	14.1
愛媛	12.6	-	-	-	-	9.4	0.9
高知	6.5	1.1	18%	-	-	6.9	2.1
福岡	55.7	30.3	54%	-	-	35.0	32.3
佐賀	43.8	25.2	58%	-	-	33.3	26.4
長崎	11.7	-	-	-	-	8.1	4.0
熊本	38.3	16.0	42%	-	-	24.7	15.3
大分	14.6	1.4	10%	-	-	9.0	3.6
宮崎	16.3	8.4	51%	-	-	13.3	8.6
鹿児島	14.9	-	-	-	-	10.7	-
沖縄	1.6	-	-	-	-	1.5	-
全国	3,076	1,260	41%	542	18%	2,354	1,384

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 事前契約分とは、3の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。

5 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

6 「-」は、集荷数量や事前契約等に該当がないもの。

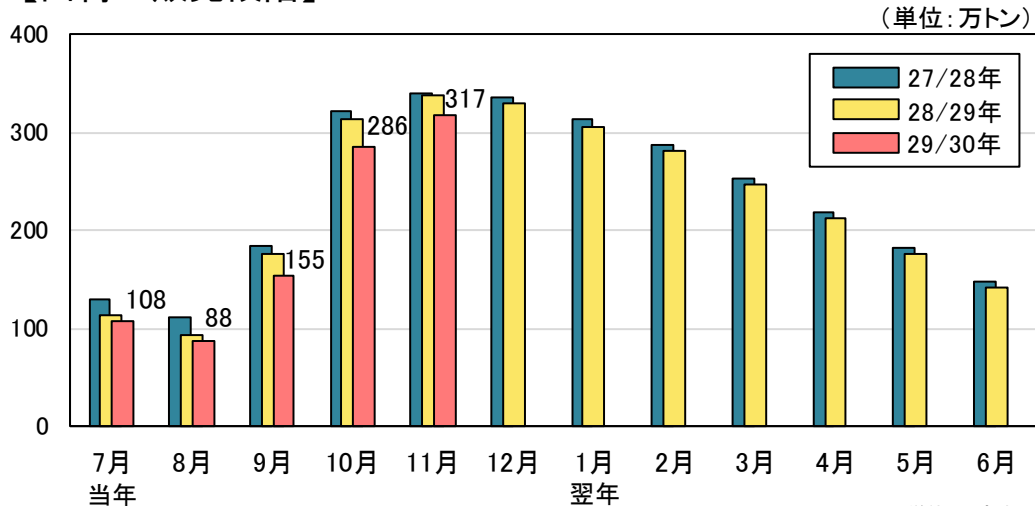
## Ⅱ 米の在庫情報

### (1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

- 平成29年11月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月▲21万トンの317万トンとなっている。

※ 都道府県別在庫量は、12頁以降参照。

#### 【出荷＋販売段階】



(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5
23年産米	0	8	106	273	304	300	275	246	214	177	141	108
1年古米(22年産)	69	37	19	13	11	8	6	5	2	2	1	1
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44
24年産米	0	16	135	306	331	331	307	279	252	219	182	150
1年古米(23年産)	73	41	26	20	15	9	7	5	4	3	2	2
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
25年産米	1	19	145	310	337	345	320	297	264	236	205	175
1年古米(24年産)	114	82	59	47	43	32	25	22	17	13	10	8
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
26年産米	0	14	131	285	316	323	306	283	255	220	188	155
1年古米(25年産)	106	78	55	45	37	28	23	19	15	13	11	9
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
27年産米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135
1年古米(26年産)	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7
28年産米	1	14	122	267	299	299	284	264	233	201	167	135
1年古米(27年産)	104	72	48	38	30	22	16	12	9	7	5	4
29/30年	108	88	155	286	317							
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲27	▲21							
29年産米	1	15	104	244	284							
1年古米(28年産)	103	71	48	39	29							

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。  
 4 期間については、29/30年であれば、29年7月～30年6月である。  
 5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。  
 6 26年産米以降は、政府備蓄米を含まない。それ以前の年産は、政府による買入までの間の政府備蓄米を含む。  
 7 米穀機構の25年産買入数量（35万トン）は、26/27年7月以降の在庫に含まれていない。

## 【出荷段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6
23年産米	0	5	94	249	276	266	245	217	182	148	116	85
1年古米(22年産)	55	29	14	7	6	4	3	2	1	1	0	0
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
24年産米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
1年古米(23年産)	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
25/26年	90	77	173	309	332	331	306	282	244	217	188	159
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31	+35	+31	+34	+37	+38
25年産米	1	16	132	285	310	316	294	271	236	210	183	155
1年古米(24年産)	89	61	40	21	19	13	10	8	6	5	4	3
26/27年	93	78	165	293	316	313	295	270	234	199	170	139
対前年差	+2	+2	▲8	▲16	▲17	▲18	▲11	▲12	▲10	▲18	▲18	▲20
26年産米	0	12	119	261	289	293	280	257	225	192	165	134
1年古米(25年産)	89	64	44	29	22	16	13	10	7	5	4	4
27/28年	105	89	157	278	296	292	273	249	210	178	149	117
対前年差	+12	+11	▲8	▲15	▲20	▲21	▲22	▲22	▲24	▲21	▲22	▲21
27年産米	0	11	100	237	262	267	254	234	202	171	143	112
1年古米(26年産)	101	76	55	39	32	23	18	14	8	6	5	4
28/29年	89	70	145	261	284	276	260	236	201	170	142	112
対前年差	▲16	▲20	▲12	▲17	▲11	▲16	▲13	▲12	▲9	▲7	▲7	▲5
28年産米	1	11	108	239	268	265	252	230	197	167	139	111
1年古米(27年産)	84	56	35	19	14	9	6	5	3	2	2	1
29/30年	84	66	124	234	263							
対前年差	▲4	▲4	▲21	▲27	▲21							
29年産米	0	11	89	214	249							
1年古米(28年産)	83	54	34	19	13							

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

## 【販売段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	±0	+2	+1
23年産米	0	3	13	24	28	34	30	29	32	30	25	23
1年古米(22年産)	14	9	5	6	5	4	3	2	2	1	1	1
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
24年産米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
1年古米(23年産)	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
25/26年	30	28	37	59	60	58	51	47	47	41	35	31
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2	+1	▲4	▲4	▲4	▲5
25年産米	0	3	13	25	27	29	27	25	28	26	21	20
1年古米(24年産)	25	21	19	26	24	19	16	13	10	8	6	5
26/27年	27	24	32	51	52	52	47	44	46	44	37	30
対前年差	▲3	▲3	▲4	▲8	▲8	▲6	▲4	▲4	▲1	+3	+3	▲1
26年産米	0	3	13	24	26	30	27	26	29	29	24	21
1年古米(25年産)	17	14	11	16	15	12	10	8	8	8	7	5
27/28年	25	23	27	43	45	45	41	39	44	40	35	30
対前年差	▲2	▲2	▲5	▲8	▲7	▲7	▲7	▲5	▲2	▲4	▲3	±0
27年産米	0	2	11	24	27	29	27	28	32	30	25	23
1年古米(26年産)	17	14	10	13	12	9	7	5	7	6	6	4
28/29年	25	24	32	53	53	53	46	45	47	42	35	29
対前年差	+1	+1	+5	+10	+8	+8	+5	+7	+3	+2	±0	▲2
28年産米	0	3	14	28	31	35	31	33	37	34	28	25
1年古米(27年産)	19	16	13	20	17	13	9	7	6	4	3	3
29/30年	23	22	31	52	54							
対前年差	▲2	▲1	▲1	±0	±0							
29年産米	0	4	15	30	35							
1年古米(28年産)	20	16	13	20	16							

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

## (2) 産地別民間在庫の状況（前年同月比）

平成29年産（29年11月末）

【出荷＋販売段階】

（単位：千トン）

産地	29年産 (H29.11末)	28年産 (H28.11末)	前年 同月比	産地	29年産 (H29.11末)	28年産 (H28.11末)	前年 同月比
北海道	334.6	301.5	111%	滋賀	52.5	62.8	84%
青森	129.2	128.1	101%	京都	11.8	9.0	131%
岩手	99.8	116.9	85%	大阪	0.9	1.0	96%
宮城	130.3	156.6	83%	兵庫	47.8	48.3	99%
秋田	230.5	230.3	100%	奈良	8.2	8.4	97%
山形	198.3	192.7	103%	和歌山	1.6	2.3	68%
福島	172.0	187.2	92%	鳥取	20.2	23.9	85%
茨城	116.7	114.2	102%	島根	32.0	26.9	119%
栃木	129.8	147.1	88%	岡山	37.8	38.8	98%
群馬	8.6	16.1	54%	広島	38.8	38.7	100%
埼玉	27.9	27.5	102%	山口	30.8	29.9	103%
千葉	97.3	102.6	95%	徳島	11.7	10.6	111%
東京	0.0	0.0	-	香川	18.5	20.9	89%
神奈川	2.2	2.6	85%	愛媛	13.7	13.5	101%
新潟	265.1	305.0	87%	高知	10.4	9.9	105%
富山	89.4	107.8	83%	福岡	54.6	48.0	114%
石川	55.0	66.1	83%	佐賀	29.8	30.7	97%
福井	65.4	64.3	102%	長崎	8.1	9.9	81%
山梨	4.0	4.4	91%	熊本	37.6	40.9	92%
長野	69.9	73.8	95%	大分	15.3	17.9	86%
岐阜	16.8	21.6	78%	宮崎	12.5	13.7	91%
静岡	17.2	19.4	89%	鹿児島	16.9	20.0	84%
愛知	32.0	33.6	95%	沖縄	0.1	0.3	47%
三重	36.2	45.1	80%	全国計	2,841	2,991	95%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

注2：出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

注3：販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。



### (3) 平成28・29年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報）

(北海道から秋田) (単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	
北海道	出荷+販売段階	96.9	66.1	95.1	287.7	357.3								
	29年産米			54.1	256.8	334.6								
	1年古米(28年産)	95.3	64.9	40.2	30.4	22.4								
	出荷段階	70.6	45.9	72.6	221.9	290.1								
	29年産米			45.9	206.6	280.0								
	1年古米(28年産)	70.3	45.7	26.7	15.3	10.1								
	販売段階	26.3	20.2	22.4	65.8	67.2								
	29年産米			8.2	50.2	54.6								
	1年古米(28年産)	25.0	19.2	13.5	15.2	12.3								
	青森	出荷+販売段階	58.3	44.5	44.9	126.2	146.0							
		29年産米			13.1	102.6	129.2							
		1年古米(28年産)	57.0	43.5	31.0	22.9	16.3							
出荷段階		45.1	32.6	33.9	103.8	121.9								
29年産米				12.8	93.7	116.5								
1年古米(28年産)		45.0	32.6	21.0	10.1	5.4								
販売段階		13.2	11.9	11.0	22.4	24.1								
29年産米				0.2	8.9	12.8								
1年古米(28年産)		12.0	10.9	9.9	12.9	10.8								
岩手		出荷+販売段階	51.3	36.8	25.6	97.0	119.6							
		29年産米			1.2	71.5	99.8							
		1年古米(28年産)	50.2	36.0	23.8	25.0	19.4							
	出荷段階	44.5	30.6	20.2	78.8	100.6								
	29年産米			0.9	66.4	91.6								
	1年古米(28年産)	44.3	30.5	19.1	12.3	9.0								
	販売段階	6.7	6.2	5.4	18.2	18.9								
	29年産米			0.2	5.1	8.2								
	1年古米(28年産)	6.0	5.5	4.7	12.7	10.4								
	宮城	出荷+販売段階	80.2	58.9	54.8	150.3	153.0							
		29年産米			15.2	117.1	130.3							
		1年古米(28年産)	78.8	57.7	38.7	32.6	22.4							
出荷段階		69.4	49.3	46.2	129.6	130.2								
29年産米				14.4	109.4	118.0								
1年古米(28年産)		69.1	49.0	31.7	20.0	12.2								
販売段階		10.7	9.6	8.6	20.7	22.8								
29年産米				0.8	7.7	12.2								
1年古米(28年産)		9.7	8.7	7.0	12.5	10.2								
秋田		出荷+販売段階	73.7	46.1	63.7	237.6	243.6							
		29年産米			38.8	216.8	230.5							
		1年古米(28年産)	69.4	42.9	22.6	19.0	11.8							
	出荷段階	57.4	34.0	52.0	215.4	218.9								
	29年産米			36.0	205.6	215.6								
	1年古米(28年産)	55.2	32.4	14.8	8.8	2.5								
	販売段階	16.3	12.1	11.7	22.2	24.7								
	29年産米			2.8	11.2	14.9								
	1年古米(28年産)	14.3	10.6	7.8	10.2	9.2								

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注： 1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が6,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。  
 4 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、28年産米と1年古米（27年産）の合計と一致しない場合がある。

(山形から埼玉)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
山形	出荷+販売段階	82.4	63.1	59.8	199.8	224.0							
	29年産米			11.9	166.7	198.3							
	1年古米(28年産)	79.1	60.6	45.8	31.5	24.7							
	出荷段階	71.4	52.1	49.3	181.5	204.1							
	29年産米			11.6	159.7	188.0							
	1年古米(28年産)	70.4	51.4	37.0	21.2	15.8							
	販売段階	10.9	11.0	10.5	18.3	19.9							
	29年産米			0.3	7.0	10.2							
	1年古米(28年産)	8.7	9.2	8.8	10.3	9.0							
福島	出荷+販売段階	82.4	57.3	47.2	179.0	209.0							
	29年産米			7.3	130.7	172.0							
	1年古米(28年産)	80.7	56.0	39.0	47.7	36.6							
	出荷段階	65.2	43.1	35.7	139.0	165.1							
	29年産米			6.6	117.3	149.4							
	1年古米(28年産)	64.7	42.7	28.8	21.6	15.7							
	販売段階	17.2	14.2	11.6	40.1	43.9							
	29年産米			0.7	13.5	22.6							
	1年古米(28年産)	16.0	13.3	10.2	26.1	20.9							
茨城	出荷+販売段階	29.0	36.7	115.6	129.0	122.4							
	29年産米		20.8	105.2	121.7	116.7							
	1年古米(28年産)	28.7	15.6	10.2	7.2	5.5							
	出荷段階	16.2	20.2	76.4	86.3	82.7							
	29年産米		13.4	73.8	84.7	81.3							
	1年古米(28年産)	16.1	6.8	2.6	1.6	1.3							
	販売段階	12.9	16.5	39.3	42.7	39.7							
	29年産米		7.4	31.4	37.0	35.4							
	1年古米(28年産)	12.6	8.8	7.7	5.6	4.2							
栃木	出荷+販売段階	66.1	48.0	104.6	142.1	151.7							
	29年産米			70.1	107.9	129.8							
	1年古米(28年産)	61.8	45.0	32.6	33.2	21.3							
	出荷段階	49.7	34.9	88.1	109.5	123.2							
	29年産米			63.8	95.6	115.2							
	1年古米(28年産)	48.2	34.0	23.7	13.7	7.9							
	販売段階	16.4	13.1	16.5	32.6	28.5							
	29年産米			6.2	12.4	14.5							
	1年古米(28年産)	13.5	11.0	8.8	19.4	13.4							
群馬	出荷+販売段階	8.7	5.9	4.3	5.3	9.9							
	29年産米			0.6	3.4	8.6							
	1年古米(28年産)	8.3	5.7	3.7	1.9	1.3							
	出荷段階	6.5	3.9	2.7	3.3	7.1							
	29年産米			0.5	3.1	7.1							
	1年古米(28年産)	6.5	3.9	2.2	0.2	0.1							
	販売段階	2.2	2.0	1.6	2.0	2.8							
	29年産米			0.1	0.3	1.6							
	1年古米(28年産)	1.8	1.8	1.5	1.7	1.2							
埼玉	出荷+販売段階	13.0	10.7	18.3	26.7	32.0							
	29年産米		1.1	8.6	20.4	27.9							
	1年古米(28年産)	12.9	9.5	9.7	6.2	4.1							
	出荷段階	8.5	6.6	11.0	19.5	24.0							
	29年産米		0.7	7.1	17.0	22.4							
	1年古米(28年産)	8.5	5.9	4.0	2.5	1.6							
	販売段階	4.5	4.1	7.3	7.1	8.1							
	29年産米		0.4	1.6	3.4	5.6							
	1年古米(28年産)	4.4	3.6	5.7	3.7	2.5							

(千葉から静岡)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
千葉	出荷+販売段階	16.5	60.3	116.6	108.8	99.8							
	29年産米		52.5	111.6	105.5	97.3							
	1年古米(28年産)	16.4	7.7	5.0	3.3	2.5							
	出荷段階	10.6	48.9	94.7	86.8	79.8							
	29年産米		46.5	93.7	86.1	79.4							
	1年古米(28年産)	10.6	2.4	1.1	0.7	0.5							
	販売段階	5.9	11.4	21.9	22.0	20.0							
	29年産米		6.0	17.9	19.4	17.9							
	1年古米(28年産)	5.8	5.3	3.9	2.6	2.0							
東京	出荷+販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	出荷段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
神奈川	出荷+販売段階	0.5	0.4	0.6	2.2	2.2							
	29年産米			0.3	2.1	2.2							
	1年古米(28年産)	0.5	0.4	0.3	0.1								
	出荷段階	0.5	0.4	0.6	2.1	2.2							
	29年産米			0.3	2.1	2.2							
	1年古米(28年産)	0.5	0.4	0.3									
	販売段階				0.1								
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
山梨	出荷+販売段階	1.7	1.0	1.6	3.8	4.2							
	29年産米			1.1	3.5	4.0							
	1年古米(28年産)	1.7	1.0	0.5	0.2	0.2							
	出荷段階	1.4	0.8	1.4	3.4	3.6							
	29年産米			1.1	3.3	3.5							
	1年古米(28年産)	1.3	0.8	0.3	0.1	0.1							
	販売段階	0.4	0.3	0.2	0.4	0.6							
	29年産米				0.3	0.5							
	1年古米(28年産)	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1							
長野	出荷+販売段階	24.8	17.8	28.7	60.9	77.0							
	29年産米			16.8	50.5	69.9							
	1年古米(28年産)	24.7	17.8	11.9	10.4	7.1							
	出荷段階	21.6	15.0	26.0	54.2	69.9							
	29年産米			16.2	48.0	65.8							
	1年古米(28年産)	21.6	15.0	9.8	6.2	4.1							
	販売段階	3.3	2.9	2.7	6.6	7.1							
	29年産米			0.7	2.4	4.1							
	1年古米(28年産)	3.1	2.8	2.0	4.2	3.1							
静岡	出荷+販売段階	2.9	6.0	15.2	16.9	17.5							
	29年産米		4.3	14.2	16.5	17.2							
	1年古米(28年産)	2.8	1.6	0.9	0.3	0.3							
	出荷段階	2.1	3.9	9.9	11.3	12.5							
	29年産米		2.5	9.2	11.3	12.5							
	1年古米(28年産)	2.1	1.3	0.7									
	販売段階	0.8	2.1	5.4	5.6	5.1							
	29年産米		1.7	5.1	5.2	4.7							
	1年古米(28年産)	0.7	0.3	0.2	0.3	0.2							

(新潟から愛知)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟	出荷+販売段階	93.9	60.8	200.2	306.7	297.9							
	29年産米		0.1	160.1	268.5	265.1							
	1年古米(28年産)	89.4	58.5	39.2	37.6	32.3							
	出荷段階	80.0	50.8	184.3	276.5	269.5							
	29年産米		0.1	150.1	251.6	248.1							
	1年古米(28年産)	77.6	49.5	33.6	24.6	21.1							
	販売段階	13.9	10.0	15.9	30.2	28.4							
	29年産米			10.0	16.9	17.0							
	1年古米(28年産)	11.8	9.0	5.5	13.0	11.2							
富山	出荷+販売段階	31.5	20.2	72.8	95.2	94.7							
	29年産米		0.6	59.6	88.1	89.4							
	1年古米(28年産)	31.3	19.5	13.2	7.1	5.3							
	出荷段階	25.2	15.1	66.0	83.5	84.1							
	29年産米		0.3	55.9	82.8	83.7							
	1年古米(28年産)	25.2	14.8	10.1	0.7	0.4							
	販売段階	6.3	5.0	6.8	11.7	10.6							
	29年産米		0.3	3.7	5.3	5.6							
	1年古米(28年産)	6.1	4.6	3.1	6.4	4.9							
石川	出荷+販売段階	17.7	12.1	54.2	64.5	59.4							
	29年産米		1.2	46.8	58.6	55.0							
	1年古米(28年産)	17.5	10.8	7.3	5.8	4.3							
	出荷段階	14.2	8.9	34.5	42.6	39.4							
	29年産米		0.4	28.6	38.7	36.6							
	1年古米(28年産)	14.1	8.5	5.8	3.9	2.8							
	販売段階	3.5	3.1	19.7	21.9	20.0							
	29年産米		0.8	18.2	20.0	18.4							
	1年古米(28年産)	3.4	2.3	1.5	1.9	1.6							
福井	出荷+販売段階	15.8	15.8	50.2	76.2	69.5							
	29年産米		4.9	42.8	70.1	65.4							
	1年古米(28年産)	15.8	10.9	7.4	6.1	4.1							
	出荷段階	12.7	11.1	41.7	59.9	55.8							
	29年産米		2.4	35.9	57.6	54.1							
	1年古米(28年産)	12.7	8.7	5.8	2.3	1.7							
	販売段階	3.1	4.7	8.5	16.3	13.7							
	29年産米		2.5	6.8	12.5	11.3							
	1年古米(28年産)	3.1	2.2	1.6	3.7	2.4							
岐阜	出荷+販売段階	12.0	10.5	10.9	13.3	20.8							
	29年産米		1.6	4.1	8.4	16.8							
	1年古米(28年産)	10.9	8.1	6.1	4.3	3.4							
	出荷段階	9.0	7.8	8.0	9.1	16.0							
	29年産米		1.3	3.4	6.6	14.0							
	1年古米(28年産)	8.9	6.5	4.5	2.4	2.0							
	販売段階	3.0	2.7	3.0	4.2	4.8							
	29年産米		0.3	0.7	1.8	2.9							
	1年古米(28年産)	2.0	1.6	1.6	1.8	1.4							
愛知	出荷+販売段階	12.8	11.9	14.3	22.6	34.0							
	29年産米		2.3	8.9	20.6	32.0							
	1年古米(28年産)	12.4	9.4	5.3	2.0	2.0							
	出荷段階	10.8	9.6	11.3	18.5	27.9							
	29年産米		1.6	7.2	17.2	26.8							
	1年古米(28年産)	10.8	8.0	4.1	1.3	1.0							
	販売段階	2.0	2.2	2.9	4.2	6.2							
	29年産米		0.7	1.7	3.4	5.2							
	1年古米(28年産)	1.6	1.4	1.2	0.7	0.9							

(三重から奈良)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
三重	出荷+販売段階	7.5	16.9	40.1	41.2	38.6							
	29年産米		12.7	37.1	38.7	36.2							
	1年古米(28年産)	7.0	4.0	3.0	2.5	2.3							
	出荷段階	5.5	13.4	35.3	36.8	34.4							
	29年産米		10.4	33.3	35.2	32.9							
	1年古米(28年産)	5.2	2.7	2.0	1.7	1.5							
	販売段階	2.0	3.6	4.7	4.4	4.1							
	29年産米		2.2	3.8	3.5	3.3							
	1年古米(28年産)	1.8	1.2	0.9	0.8	0.8							
滋賀	出荷+販売段階	15.1	13.3	52.3	56.5	56.9							
	29年産米		3.7	45.5	51.1	52.5							
	1年古米(28年産)	14.7	9.3	6.6	5.2	4.4							
	出荷段階	12.3	10.0	46.3	50.4	50.7							
	29年産米		3.3	42.6	47.5	48.2							
	1年古米(28年産)	11.9	6.5	3.5	2.8	2.4							
	販売段階	2.9	3.2	6.0	6.1	6.2							
	29年産米		0.4	2.9	3.6	4.3							
	1年古米(28年産)	2.8	2.8	3.1	2.4	1.9							
京都	出荷+販売段階	5.3	3.6	10.2	12.2	12.8							
	29年産米		0.1	8.0	11.2	11.8							
	1年古米(28年産)	5.2	3.6	2.2	1.0	1.0							
	出荷段階	4.0	2.8	8.8	9.9	10.3							
	29年産米		0.1	7.3	9.8	10.2							
	1年古米(28年産)	4.0	2.7	1.5	0.1	0.1							
	販売段階	1.3	0.9	1.4	2.3	2.5							
	29年産米			0.7	1.4	1.6							
	1年古米(28年産)	1.3	0.9	0.7	0.9	0.9							
大阪	出荷+販売段階	0.9	0.6	0.8	1.2	1.2							
	29年産米			0.4	0.9	0.9							
	1年古米(28年産)	0.9	0.6	0.4	0.3	0.3							
	出荷段階	0.7	0.5	0.6	0.9	1.0							
	29年産米			0.4	0.8	0.9							
	1年古米(28年産)	0.7	0.5	0.2	0.1	0.1							
	販売段階	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2							
	29年産米					0.1							
	1年古米(28年産)	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2							
兵庫	出荷+販売段階	15.7	11.0	25.9	29.3	49.7							
	29年産米			18.8	26.9	47.8							
	1年古米(28年産)	15.4	10.6	6.9	2.2	1.7							
	出荷段階	13.2	8.9	23.4	24.8	44.8							
	29年産米			17.7	24.5	44.6							
	1年古米(28年産)	13.2	8.9	5.7	0.3	0.2							
	販売段階	2.5	2.0	2.6	4.4	4.9							
	29年産米			1.1	2.3	3.2							
	1年古米(28年産)	2.1	1.7	1.2	1.8	1.5							
奈良	出荷+販売段階	2.2	1.5	1.6	4.6	8.6							
	29年産米			0.7	4.2	8.2							
	1年古米(28年産)	2.1	1.4	0.8	0.4	0.3							
	出荷段階	0.5	0.3	0.8	3.4	7.0							
	29年産米			0.7	3.4	7.0							
	1年古米(28年産)	0.5	0.3	0.1									
	販売段階	1.7	1.2	0.8	1.2	1.6							
	29年産米			0.1	0.7	1.2							
	1年古米(28年産)	1.6	1.1	0.7	0.4	0.3							



(和歌山から山口)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
和歌山	出荷+販売段階	0.8	0.5	0.9	1.7	1.7							
	29年産米			0.5	1.5	1.6							
	1年古米(28年産)	0.8	0.5	0.4	0.2	0.2							
	出荷段階	0.6	0.4	0.5	1.4	1.3							
	29年産米			0.5	1.4	1.3							
	1年古米(28年産)	0.6	0.4										
	販売段階	0.3	0.1	0.4	0.4	0.4							
	29年産米				0.1	0.2							
	1年古米(28年産)	0.2	0.1	0.4	0.2	0.2							
鳥取	出荷+販売段階	7.2	4.6	9.5	21.0	22.1							
	29年産米			6.6	18.7	20.2							
	1年古米(28年産)	7.2	4.5	2.8	2.2	1.9							
	出荷段階	5.2	3.0	7.8	18.1	19.2							
	29年産米			6.0	17.1	18.3							
	1年古米(28年産)	5.2	3.0	1.8	1.1	0.9							
	販売段階	2.0	1.6	1.7	2.9	2.9							
	29年産米			0.6	1.7	1.9							
	1年古米(28年産)	1.9	1.5	1.0	1.2	0.9							
島根	出荷+販売段階	8.3	6.3	28.0	33.6	33.4							
	29年産米		1.0	24.3	31.6	32.0							
	1年古米(28年産)	8.2	5.2	3.7	1.9	1.3							
	出荷段階	6.7	4.7	25.6	30.0	30.1							
	29年産米		0.8	23.0	29.7	29.8							
	1年古米(28年産)	6.7	3.8	2.5	0.3	0.3							
	販売段階	1.6	1.6	2.5	3.6	3.3							
	29年産米		0.1	1.3	2.0	2.2							
	1年古米(28年産)	1.5	1.4	1.2	1.6	1.0							
岡山	出荷+販売段階	14.9	10.2	15.9	23.2	40.2							
	29年産米			8.9	19.4	37.8							
	1年古米(28年産)	14.8	10.1	6.9	3.7	2.3							
	出荷段階	11.4	7.5	11.3	17.3	32.7							
	29年産米			7.5	16.6	32.3							
	1年古米(28年産)	11.4	7.4	3.9	0.7	0.4							
	販売段階	3.5	2.7	4.5	5.8	7.5							
	29年産米			1.5	2.8	5.5							
	1年古米(28年産)	3.4	2.6	3.0	3.0	1.9							
広島	出荷+販売段階	10.4	6.9	23.2	38.6	40.3							
	29年産米		0.3	19.5	36.5	38.8							
	1年古米(28年産)	10.3	6.4	3.5	2.0	1.4							
	出荷段階	7.5	4.8	19.6	33.4	35.0							
	29年産米		0.2	17.8	33.0	34.8							
	1年古米(28年産)	7.5	4.6	1.8	0.3	0.2							
	販売段階	3.0	2.1	3.7	5.2	5.3							
	29年産米			1.8	3.5	4.0							
	1年古米(28年産)	2.8	1.9	1.7	1.6	1.2							
山口	出荷+販売段階	11.5	8.8	20.0	30.9	34.2							
	29年産米		0.5	14.1	26.8	30.8							
	1年古米(28年産)	11.1	8.0	5.8	4.0	3.3							
	出荷段階	10.0	7.4	18.6	26.0	29.8							
	29年産米		0.4	13.6	26.0	29.8							
	1年古米(28年産)	10.0	7.0	4.9									
	販売段階	1.5	1.4	1.5	4.8	4.4							
	29年産米		0.1	0.4	0.8	1.1							
	1年古米(28年産)	1.1	1.0	0.8	4.0	3.2							

(徳島から佐賀)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
徳島	出荷+販売段階	2.3	10.8	14.2	13.7	12.5							
	29年産米		9.4	13.1	12.8	11.7							
	1年古米(28年産)	2.1	1.2	0.9	0.7	0.6							
	出荷段階	0.7	7.9	10.6	9.8	8.6							
	29年産米		7.6	10.3	9.8	8.6							
	1年古米(28年産)	0.7	0.3	0.3									
	販売段階	1.6	2.9	3.6	3.9	3.9							
	29年産米		1.8	2.8	3.0	3.2							
	1年古米(28年産)	1.4	0.9	0.6	0.7	0.6							
香川	出荷+販売段階	7.5	6.0	6.6	13.0	19.4							
	29年産米		0.7	3.2	11.4	18.5							
	1年古米(28年産)	7.3	5.2	3.3	1.5	0.9							
	出荷段階	6.4	5.1	5.4	11.6	17.4							
	29年産米		0.6	3.1	11.0	17.4							
	1年古米(28年産)	6.4	4.5	2.3	0.6								
	販売段階	1.1	0.9	1.2	1.3	2.0							
	29年産米		0.1	0.2	0.4	1.1							
	1年古米(28年産)	0.9	0.7	1.0	0.9	0.9							
愛媛	出荷+販売段階	4.2	5.3	7.9	12.5	15.1							
	29年産米		2.4	5.8	10.9	13.7							
	1年古米(28年産)	3.9	2.8	2.0	1.5	1.3							
	出荷段階	3.8	5.0	7.5	12.0	14.6							
	29年産米		2.3	5.6	10.5	13.3							
	1年古米(28年産)	3.5	2.5	1.7	1.3	1.2							
	販売段階	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5							
	29年産米		0.1	0.2	0.3	0.4							
	1年古米(28年産)	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1							
高知	出荷+販売段階	3.7	11.7	10.7	12.5	11.9							
	29年産米	0.4	9.2	8.7	10.8	10.4							
	1年古米(28年産)	3.1	2.4	1.9	1.6	1.5							
	出荷段階	1.1	6.6	5.9	6.8	6.4							
	29年産米	0.1	5.8	5.2	6.3	5.8							
	1年古米(28年産)	0.9	0.7	0.6	0.5	0.5							
	販売段階	2.6	5.1	4.9	5.7	5.6							
	29年産米	0.3	3.3	3.5	4.5	4.6							
	1年古米(28年産)	2.2	1.6	1.3	1.1	1.0							
福岡	出荷+販売段階	22.5	16.7	25.6	43.0	61.3							
	29年産米		0.7	15.0	34.2	54.6							
	1年古米(28年産)	22.1	15.7	10.4	8.7	6.6							
	出荷段階	18.9	12.9	17.7	30.6	49.8							
	29年産米		0.4	9.6	26.5	46.9							
	1年古米(28年産)	18.8	12.4	8.1	4.0	2.8							
	販売段階	3.6	3.8	7.8	12.5	11.6							
	29年産米		0.3	5.4	7.7	7.7							
	1年古米(28年産)	3.3	3.3	2.3	4.7	3.8							
佐賀	出荷+販売段階	10.4	8.2	9.5	25.2	31.3							
	29年産米		1.2	5.2	23.9	29.8							
	1年古米(28年産)	10.2	6.9	4.2	1.2	1.4							
	出荷段階	9.1	7.0	8.5	23.0	28.0							
	29年産米		1.1	5.0	22.9	27.9							
	1年古米(28年産)	9.1	6.0	3.5	0.1	0.1							
	販売段階	1.3	1.2	1.1	2.2	3.3							
	29年産米		0.1	0.2	1.0	2.0							
	1年古米(28年産)	1.1	0.9	0.7	1.1	1.3							

(長崎から沖縄)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
長崎	出荷+販売段階	3.2	3.0	2.9	6.4	9.0							
	29年産米		0.8	1.6	5.1	8.1							
	1年古米(28年産)	3.2	2.2	1.3	1.3	1.0							
	出荷段階	2.8	2.7	2.5	5.3	8.0							
	29年産米		0.8	1.4	4.8	7.5							
	1年古米(28年産)	2.8	1.9	1.1	0.5	0.4							
	販売段階	0.3	0.3	0.4	1.1	1.1							
	29年産米			0.2	0.3	0.6							
	1年古米(28年産)	0.3	0.3	0.2	0.7	0.5							
熊本	出荷+販売段階	15.3	12.7	11.7	29.9	39.6							
	29年産米		2.6	5.4	27.0	37.6							
	1年古米(28年産)	15.1	9.8	6.2	2.7	2.0							
	出荷段階	11.5	8.6	7.3	21.0	29.4							
	29年産米		1.7	3.4	19.8	28.7							
	1年古米(28年産)	11.5	6.9	3.9	1.2	0.7							
	販売段階	3.9	4.0	4.4	8.9	10.3							
	29年産米		0.9	2.0	7.2	8.9							
	1年古米(28年産)	3.6	2.9	2.3	1.5	1.3							
大分	出荷+販売段階	6.5	5.0	4.6	9.6	16.3							
	29年産米		0.5	1.9	8.1	15.3							
	1年古米(28年産)	6.3	4.4	2.6	1.4	1.0							
	出荷段階	4.8	3.6	2.9	6.2	11.7							
	29年産米		0.3	1.1	5.5	11.3							
	1年古米(28年産)	4.8	3.3	1.8	0.7	0.5							
	販売段階	1.7	1.4	1.6	3.4	4.6							
	29年産米		0.2	0.8	2.6	4.0							
	1年古米(28年産)	1.6	1.1	0.8	0.8	0.5							
宮崎	出荷+販売段階	8.7	8.0	4.1	11.0	13.3							
	29年産米	5.2	5.6	2.7	10.1	12.5							
	1年古米(28年産)	3.4	2.3	1.3	0.9	0.7							
	出荷段階	6.8	4.3	1.0	7.7	10.4							
	29年産米	4.5	2.9	0.3	7.5	10.1							
	1年古米(28年産)	2.3	1.5	0.6	0.3	0.3							
	販売段階	1.9	3.7	3.1	3.3	2.9							
	29年産米	0.8	2.8	2.4	2.6	2.4							
	1年古米(28年産)	1.1	0.9	0.7	0.6	0.5							
鹿児島	出荷+販売段階	7.7	9.9	7.7	14.1	19.3							
	29年産米	0.5	4.3	3.7	11.2	16.9							
	1年古米(28年産)	6.8	5.3	3.8	2.9	2.4							
	出荷段階	5.4	5.3	3.6	9.7	13.9							
	29年産米	0.1	1.0	0.5	7.3	11.8							
	1年古米(28年産)	5.0	4.1	3.0	2.4	2.0							
	販売段階	2.2	4.6	4.1	4.4	5.4							
	29年産米	0.4	3.3	3.2	3.9	5.1							
	1年古米(28年産)	1.7	1.2	0.8	0.5	0.4							
沖縄	出荷+販売段階	0.6	0.3	0.3	0.2	0.1							
	29年産米	0.6	0.3	0.3	0.2	0.1							
	1年古米(28年産)												
	出荷段階	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1							
	29年産米	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1							
	1年古米(28年産)												
	販売段階	0.3	0.1	0.1									
	29年産米	0.3	0.1	0.1									
	1年古米(28年産)												

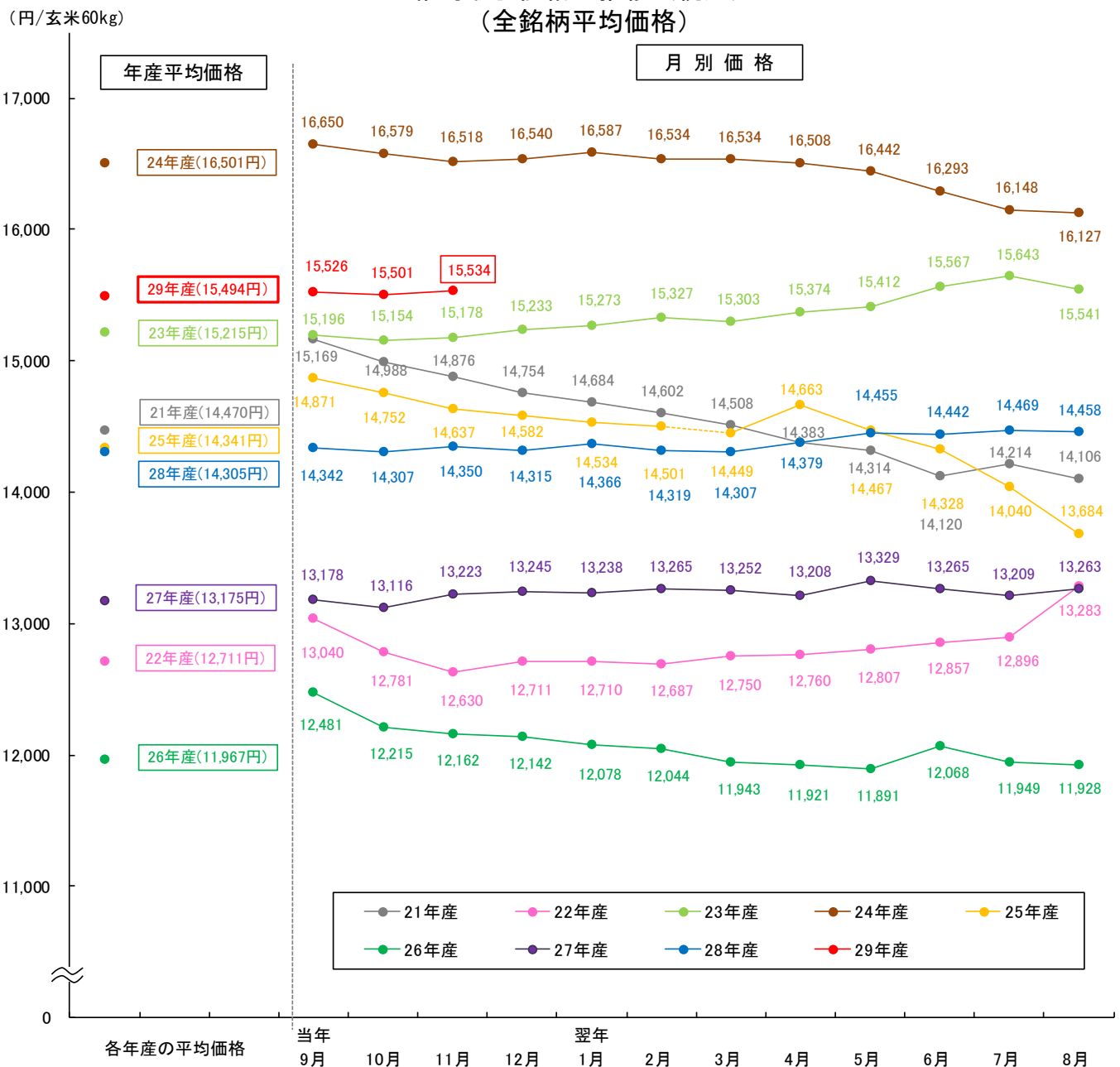
### Ⅲ 米の価格情報

#### 1 相対取引価格・数量

##### (1) 相対取引価格（年産別）

- 平成28年産米の平成29年11月の全銘柄平均価格は、前年産の同時期と比べ+1,184円/60kg。
- ※ 産地銘柄ごとの価格は、22頁以降を参照。

相対取引価格の推移（税込）  
（全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 価格には、運賃、包装代、消費税（平成26年3月までは5%、同年4月以降は8%）が含まれている。

3 グラフの左側は各年産の平均価格（注4）、それ以降は月ごとの価格の推移。

4 平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月（28年産は平成29年8月、29年産は平成29年11月）までの通年平均価格。（28年産及び29年産は速報値ベース）

## (2) 価格帯別分析結果（平成29年11月）

- 平成28年産米と平成29年産米の価格帯別平均価格を比較したところ、平成28年産の価格が15,000円以上の銘柄は+595円、13,000円未満の銘柄では+1,565円。
- 産地銘柄ごとでは、「茨城県産あきたこまち」が最も上昇しており、次いで、「奈良県産ヒノヒカリ」、「秋田県産ひとめぼれ」という状況。

### 価格帯別相対取引価格

単位：円/玄米60kg（税込）

		平成28年産の相対取引価格			
		15,000円以上の銘柄の平均	15,000円～14,000円の銘柄の平均	14,000円～13,000円の銘柄の平均	13,000円未満の銘柄の平均
平成28年産(出回り～29年8月)	①	16,361	14,337	13,646	12,874
平成29年産(出回り～29年11月) (28年産価格帯ベース)	②	16,956	15,515	14,896	14,439
価格差	②-①	+ 595	+ 1,178	+ 1,250	+ 1,565

### 平成28年産と平成29年産の価格差（相対取引価格上昇幅上位10銘柄）

単位：円/玄米60kg（税込）

		平成28年産 (出回り～平成29年8月) ①	平成29年産 (出回り～平成29年11月) ②	価格差 ②-①
茨城	あきたこまち	13,247	15,414	+ 2,167
奈良	ヒノヒカリ	12,919	14,677	+ 1,758
秋田	ひとめぼれ	13,687	15,419	+ 1,732
奈良	コシヒカリ	13,155	14,869	+ 1,714
山形	ひとめぼれ	14,532	16,241	+ 1,709
千葉	ふさこがね	12,835	14,541	+ 1,706
千葉	ふさおとめ	12,993	14,675	+ 1,682
群馬	ゆめまつり	13,610	15,239	+ 1,629
岡山	アケボノ	13,361	14,985	+ 1,624
秋田	あきたこまち	14,174	15,748	+ 1,574

### (3) 相対取引価格・数量（平成29年産米、産地品種銘柄別、平成29年11月分）

#### 相対取引価格・数量①（北海道から栃木まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (29年11月) ①	数量 29年産米 (29年11月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				29年産米 (29年11月) 〔出回り～〕	28年産米 (29年8月) 〔出回り～〕	対前年比
				29年産米 (29年10月)	対前月比	28年産米 (28年11月)	対前年比	29年産米 (29年10月)	対前月比	28年産米 (28年11月)	対前年比			
北海道	ななつぼし	15,646	31,411	15,840	99%	14,059	111%	46,967	67%	21,666	145%	15,768	14,236	111%
北海道	ゆめびりか	17,504	9,457	17,525	100%	16,546	106%	19,093	50%	5,186	182%	17,538	16,480	106%
北海道	きらら397	15,563	8,738	15,774	99%	13,895	112%	6,278	139%	2,285	382%	15,651	14,142	111%
青森	まっしぐら	14,619	13,322	14,569	100%	13,388	109%	9,619	138%	6,081	219%	14,591	13,211	110%
青森	つがるロマン	14,690	16,325	14,818	99%	13,376	110%	5,165	316%	3,361	486%	14,721	13,422	110%
岩手	ひとめぼれ	15,059	7,015	15,178	99%	13,944	108%	6,635	106%	7,480	94%	15,114	13,836	109%
岩手	あきたこまち	14,283	1,323	15,225	94%	13,218	108%	524	252%	3,237	41%	14,550	13,476	108%
岩手	いわてっこ	-	-	14,666	-	13,240	-	723	-	530	-	14,667	13,242	111%
宮城	ひとめぼれ	15,700	6,074	15,324	102%	13,984	112%	5,003	121%	17,494	35%	15,400	13,945	110%
宮城	つや姫	15,948	1,434	15,393	104%	14,439	110%	2,055	70%	1,070	134%	15,621	14,376	109%
宮城	ササニシキ	15,876	968	15,512	102%	14,296	111%	1,023	95%	797	121%	15,520	14,114	110%
秋田	あきたこまち	15,987	15,070	15,659	102%	14,134	113%	24,216	62%	12,650	119%	15,748	14,174	111%
秋田	めんこいな	15,357	246	14,546	106%	13,301	115%	1,302	19%	655	38%	14,675	13,428	109%
秋田	ひとめぼれ	15,365	2,156	15,542	99%	13,635	113%	839	257%	796	271%	15,419	13,687	113%
山形	はえぬき	15,249	4,056	15,284	100%	13,839	110%	5,682	71%	3,583	113%	15,261	13,834	110%
山形	つや姫	18,122	2,857	18,076	100%	17,969	101%	5,574	51%	2,390	120%	18,090	17,867	101%
山形	ひとめぼれ	16,514	3,173	15,430	107%	14,374	115%	883	359%	1,101	288%	16,241	14,532	112%
福島	コシヒカリ(中通り)	15,240	3,582	15,015	101%	13,639	112%	1,909	188%	4,527	79%	15,162	13,877	109%
福島	コシヒカリ(会津)	15,388	1,986	15,411	100%	14,025	110%	2,264	88%	5,125	39%	15,400	14,208	108%
福島	コシヒカリ(浜通り)	14,798	523	14,462	102%	12,699	117%	242	216%	447	117%	14,685	13,376	110%
福島	ひとめぼれ	14,772	2,014	14,654	101%	13,119	113%	1,119	180%	2,227	90%	14,721	13,398	110%
福島	天のつぶ	14,532	611	14,480	100%	12,676	115%	410	149%	170	359%	14,511	13,354	109%
茨城	コシヒカリ	15,097	6,046	15,477	98%	14,077	107%	4,677	129%	4,792	126%	15,295	13,778	111%
茨城	あきたこまち	15,530	322	15,565	100%	14,361	108%	568	57%	143	225%	15,414	13,247	116%
茨城	ゆめひたち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,024	-
栃木	コシヒカリ	15,612	3,771	15,389	101%	13,835	113%	2,519	150%	13,290	28%	15,333	13,830	111%
栃木	あさひの夢	14,763	1,140	14,727	100%	13,451	110%	223	511%	929	123%	14,756	13,586	109%
栃木	なすひかり	14,676	519	14,671	100%	13,656	107%	760	68%	248	209%	14,633	13,900	105%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 産地品種銘柄ごとの価格（①）は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したものであり、数量（②）は、同契約の数量の合計である。

ただし、全農が締結する「福島、茨城、鳥取、岡山、高知」の契約では、27年産から契約方法を見直し、これまでの運賃（東京、大阪着基準）を含めた契約方法から、産地在姿での契約方法に変更したため、当該産地の相対取引価格には全農契約分の運賃が含まれていない。

3 価格に含む消費税は、平成26年4月分から8%で算定している。

4 加重平均に際しては、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。

6 全銘柄平均価格（次々頁）は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定。

7 ④及び⑥は前年産の価格、数量である。

8 「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わないもの。

9 斜線は、当該年産米において産地品種銘柄の報告対象でなかったもの。



相対取引価格・数量②（群馬から兵庫まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (29年11月) ①	数量 29年産米 (29年11月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				29年産米 (29年10月)	28年産米 (28年11月)	対前年比
				29年産米 (29年10月)	対前月比	28年産米 (28年11月)	対前年比	29年産米 (29年10月)	対前月比	28年産米 (28年11月)	対前年比			
群馬	あさひの夢	15,385	4,022	14,850	104%	13,935	110%	433	929%	2,418	166%	15,333	13,803	111%
群馬	ゆめまつり	15,261	162	-	-	13,762	111%	-	-	349	46%	15,239	13,610	112%
埼玉	彩のかがやき	15,067	272	14,725	102%	12,724	118%	4,351	6%	1,177	23%	14,745	13,372	110%
埼玉	コシヒカリ	15,177	650	14,643	104%	13,760	110%	2,323	28%	426	153%	14,740	13,841	106%
埼玉	彩のきずな	13,498	116	14,418	94%	13,361	101%	483	24%	192	60%	14,208	13,301	107%
千葉	コシヒカリ	15,247	1,656	15,223	100%	13,752	111%	2,870	58%	3,322	50%	14,985	13,718	109%
千葉	ふさこがね	14,594	769	14,716	99%	13,278	110%	2,956	26%	470	164%	14,541	12,835	113%
千葉	ふさおとめ	14,667	905	14,688	100%	13,222	111%	1,692	53%	1,062	85%	14,675	12,993	113%
山梨	コシヒカリ	17,627	419	17,660	100%	17,178	103%	360	116%	334	125%	17,642	16,977	104%
山梨	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,687	-
長野	コシヒカリ	15,418	10,212	15,495	100%	14,674	105%	2,045	499%	2,922	349%	15,510	14,538	107%
長野	あきたこまち	14,672	353	14,657	100%	13,587	108%	702	50%	366	96%	14,657	13,596	108%
静岡	コシヒカリ	15,156	231	15,344	99%	14,676	103%	313	74%	191	121%	15,357	14,845	103%
静岡	きぬむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,296	-
静岡	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,386	-
新潟	コシヒカリ(一般)	16,846	12,686	16,798	100%	16,529	102%	14,259	89%	11,017	115%	16,866	16,176	104%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	20,700	3,192	20,703	100%	20,589	101%	3,303	97%	3,027	105%	20,654	20,416	101%
新潟	コシヒカリ(岩船)	17,479	585	17,429	100%	17,004	103%	349	168%	883	66%	17,319	16,834	103%
新潟	コシヒカリ(佐渡)	17,415	810	17,325	101%	17,038	102%	1,612	50%	1,733	47%	17,332	16,967	102%
新潟	こしいぶき	14,872	2,269	14,742	101%	13,651	109%	5,686	40%	5,136	44%	14,813	13,670	108%
富山	コシヒカリ	15,341	6,476	15,977	96%	15,362	100%	6,949	93%	7,322	88%	15,839	15,100	105%
富山	てんたかく	14,587	1,045	14,449	101%	13,792	106%	310	337%	2,595	40%	14,523	13,861	105%
石川	コシヒカリ	15,705	442	15,628	100%	14,872	106%	1,192	37%	4,868	9%	15,658	14,815	106%
石川	ゆめみづほ	-	-	14,501	-	-	-	348	-	-	-	14,506	13,233	110%
福井	コシヒカリ	15,752	3,680	15,780	100%	15,093	104%	1,292	285%	1,537	239%	15,751	14,929	106%
福井	ハナエチゼン	14,527	958	14,624	99%	13,531	107%	964	99%	1,084	88%	14,616	13,527	108%
岐阜	ハツシモ	14,851	1,013	14,683	101%	14,386	103%	1,262	80%	988	103%	14,758	13,956	106%
岐阜	コシヒカリ	15,403	614	15,912	97%	14,936	103%	563	109%	1,024	60%	15,479	15,154	102%
岐阜	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,234	13,220	108%
愛知	あいちのかおり	14,395	380	14,376	100%	13,311	108%	248	153%	855	44%	14,388	13,488	107%
愛知	コシヒカリ	-	-	-	-	13,796	-	-	-	225	-	14,694	13,823	106%
愛知	大地の風	14,366	117	14,359	100%	13,284	108%	105	111%	172	68%	14,363	13,466	107%
三重	コシヒカリ(一般)	-	-	-	-	14,299	-	-	-	1,001	-	14,896	14,369	104%
三重	コシヒカリ(伊賀)	-	-	-	-	14,682	-	-	-	501	-	15,315	14,781	104%
三重	キヌヒカリ	14,638	100	-	-	-	-	-	-	-	-	14,170	13,356	106%
滋賀	コシヒカリ	15,085	1,608	15,042	100%	14,459	104%	925	174%	1,571	102%	15,060	14,346	105%
滋賀	キヌヒカリ	14,209	847	14,058	101%	14,058	101%	788	107%	663	128%	14,250	13,270	107%
滋賀	日本晴	14,014	327	14,050	100%	13,268	106%	123	266%	248	132%	14,032	12,902	109%
京都	コシヒカリ	15,680	735	15,322	102%	15,344	102%	260	283%	731	101%	15,815	15,194	104%
京都	キヌヒカリ	14,785	249	14,619	101%	13,756	107%	582	43%	1,103	23%	14,671	13,706	107%
兵庫	コシヒカリ	15,653	7,073	15,719	100%	15,278	102%	1,378	513%	1,047	676%	15,665	15,193	103%
兵庫	ヒノヒカリ	14,022	1,232	-	-	12,958	108%	-	-	470	262%	14,024	13,207	106%
兵庫	キヌヒカリ	14,261	1,190	14,011	102%	13,122	109%	213	559%	197	604%	14,198	13,174	108%

注：本表の注意点は、前頁の脚注を参照。

相対取引価格・数量③（奈良から鹿児島まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (29年11月) ①	数量 29年産米 (29年11月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				29年産米	28年産米	対前年比 /
				29年産米 (29年10月)	対前月比	28年産米 (28年11月)	対前年比	29年産米 (29年10月)	対前月比	28年産米 (28年11月)	対前年比	(出回り～ 29年11月)	(出回り～ 29年8月)	
				/	/	/	/	/	/	/	/			
奈良	ヒノヒカリ	14,728	441	14,579	101%	13,018	113%	227	194%	725	61%	14,677	12,919	114%
奈良	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,869	13,155	113%
鳥取	コシヒカリ	14,744	566	15,206	97%	13,905	106%	4,268	13%	293	193%	15,120	14,006	108%
鳥取	きぬむすめ	14,053	753	14,320	98%	13,173	107%	3,478	22%	423	178%	14,274	13,173	108%
鳥取	ひとめぼれ	13,845	732	14,317	97%	13,018	106%	1,821	40%	298	246%	14,107	13,064	108%
島根	コシヒカリ	15,474	515	15,605	99%	14,726	105%	1,398	37%	808	64%	15,096	14,790	102%
島根	きぬむすめ	-	-	14,411	-	13,438	-	1,288	-	1,594	-	14,334	13,426	107%
島根	つや姫	15,199	157	15,345	99%	15,493	98%	642	24%	113	139%	15,141	14,530	104%
岡山	アケボノ	14,985	135	-	-	-	-	-	-	-	-	14,985	13,361	112%
岡山	あきたこまち	-	-	15,274	-	-	-	539	-	-	-	15,319	13,842	111%
岡山	ヒノヒカリ	15,469	970	14,930	104%	13,786	112%	549	177%	299	324%	15,274	13,804	111%
広島	コシヒカリ	14,787	1,479	14,974	99%	14,584	101%	582	254%	803	184%	15,055	14,157	106%
広島	あきろまん	13,919	255	14,232	98%	12,998	107%	330	77%	764	33%	14,140	13,155	107%
広島	ヒノヒカリ	-	-	13,967	-	12,962	-	115	-	285	-	13,939	12,835	109%
山口	コシヒカリ	14,876	644	14,871	100%	14,353	104%	837	77%	398	162%	14,877	14,446	103%
山口	ひとめぼれ	14,084	287	14,000	101%	13,242	106%	664	43%	823	35%	14,025	13,291	106%
山口	ヒノヒカリ	13,989	390	14,017	100%	13,297	105%	725	54%	303	129%	14,019	13,355	105%
徳島	コシヒカリ	-	-	-	-	14,580	-	-	-	124	-	15,248	14,032	109%
徳島	キヌヒカリ	14,580	120	-	-	13,608	107%	-	-	120	100%	14,418	13,275	109%
香川	ヒノヒカリ	14,037	555	14,035	100%	13,184	106%	230	241%	586	95%	14,036	13,185	106%
香川	コシヒカリ	14,612	575	14,618	100%	13,891	105%	543	106%	449	128%	14,589	13,868	105%
愛媛	コシヒカリ	14,203	361	14,208	100%	13,137	108%	307	118%	315	115%	14,429	13,326	108%
愛媛	ヒノヒカリ	13,650	120	-	-	12,398	110%	-	-	123	98%	13,653	12,473	109%
愛媛	あきたこまち	13,678	140	13,655	100%	-	-	110	127%	-	-	13,795	12,530	110%
高知	コシヒカリ	15,114	180	15,114	100%	14,250	106%	531	34%	408	44%	15,410	14,481	106%
高知	ヒノヒカリ	14,358	197	-	-	13,602	106%	-	-	151	130%	14,358	13,602	106%
福岡	夢つくし	16,037	641	16,085	100%	15,547	103%	780	82%	529	121%	16,287	15,780	103%
福岡	ヒノヒカリ	14,982	2,474	15,055	100%	14,147	106%	882	280%	912	271%	15,001	14,196	106%
福岡	元気つくし	15,791	2,801	16,040	98%	15,096	105%	1,488	188%	2,564	109%	15,877	15,614	102%
佐賀	さがびより	15,121	878	14,945	101%	14,220	106%	174	505%	682	129%	15,092	14,133	107%
佐賀	夢しずく	14,116	811	14,160	100%	13,304	106%	936	87%	609	133%	14,221	13,333	107%
佐賀	ヒノヒカリ	13,791	516	14,030	98%	13,219	104%	105	491%	185	279%	13,831	13,075	106%
長崎	ヒノヒカリ	15,246	266	15,329	99%	14,414	106%	135	197%	247	108%	15,274	14,395	106%
長崎	にこまる	15,587	291	-	-	14,745	106%	-	-	326	89%	15,580	14,713	106%
長崎	コシヒカリ	-	-	15,979	-	-	-	154	-	-	-	16,134	15,191	106%
熊本	ヒノヒカリ	14,728	507	14,813	99%	14,216	104%	658	77%	611	83%	14,776	14,242	104%
熊本	森のくまさん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,921	14,526	103%
熊本	コシヒカリ	15,349	292	15,706	98%	15,548	99%	339	86%	691	42%	15,397	15,786	98%
大分	ヒノヒカリ	15,651	899	15,397	102%	14,507	108%	441	204%	500	180%	15,567	14,174	110%
大分	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,339	14,462	106%
宮崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,045	14,721	102%
宮崎	ヒノヒカリ	15,334	249	14,606	105%	14,592	105%	311	80%	125	199%	14,929	14,363	104%
鹿児島	ヒノヒカリ	15,269	359	14,884	103%	15,219	100%	508	71%	236	152%	15,043	15,217	99%
鹿児島	あきほなみ	15,618	142	-	-	14,814	105%	-	-	223	64%	15,442	15,405	100%
鹿児島	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,542	15,222	102%
全銘柄平均価格、合計数量		15,534	232,910	15,501	100%	14,350	108%	244,274	95%	204,786	114%	15,494	14,305	108%

注：本表の注意点は、前々頁の脚注を参照。

## (4) スポット価格の状況

〔○ スポット取引は、相当期間にわたり安定的に行う相対取引等と性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。〕

### スポット価格 [ 日本コメ市場株式会社 ]

税抜価格

#### 【平成29年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成29年 8月	平成29年 9月	平成29年 10月	平成29年 11月	平成29年 12月
北海道なつぼし	日本コメ市場 (取引会)					
北海道きらら397	日本コメ市場 (随時)					
青森まっしぐら	日本コメ市場 (取引会)					
青森つがるロマン	日本コメ市場 (随時)					
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)					
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場 (随時)					
	日本コメ市場 (取引会)					
秋田あきたこまち	日本コメ市場 (随時)		15,193	15,508	15,756	15,700
	日本コメ市場 (取引会)		15,297			
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)		14,600		15,003	
	日本コメ市場 (取引会)				15,003	
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)					
茨城コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)			14,903		
	日本コメ市場 (取引会)					
茨城あきたこまち	日本コメ市場 (取引会)		14,600			
栃木コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)					15,100
	日本コメ市場 (取引会)					
栃木あさひの夢	日本コメ市場 (取引会)				14,510	
千葉コシヒカリ	日本コメ市場 (取引会)	14,550	14,680		15,000	
千葉あきたこまち	日本コメ市場 (取引会)	14,387				
千葉ふさこがね	日本コメ市場 (取引会)		14,225		14,600	
千葉ふさおとめ	日本コメ市場 (取引会)	14,003				
新潟コシヒカリ (一般)	日本コメ市場 (随時)		15,613			
	日本コメ市場 (取引会)		15,500		16,271	
富山コシヒカリ	日本コメ市場 (取引会)					

#### 【平成28年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
北海道なつぼし	日本コメ市場 (取引会)									15,193				
北海道きらら397	日本コメ市場 (随時)								14,106					
青森まっしぐら	日本コメ市場 (取引会)		12,925											
青森つがるロマン	日本コメ市場 (随時)				13,093	13,175		13,451						
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)					13,500	13,557		13,500					
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場 (随時)							13,550					14,367	
	日本コメ市場 (取引会)												14,700	
秋田あきたこまち	日本コメ市場 (随時)		13,507	13,691	13,635	13,646	13,893	14,544	14,466	14,419	14,958	15,300	15,600	
	日本コメ市場 (取引会)		13,471			13,731	13,883		14,391	14,614			15,500	
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)			13,200			13,160			13,533	13,550	14,390		
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場 (取引会)									13,360				
茨城コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)								13,481	13,631	14,011	14,250		
	日本コメ市場 (取引会)	13,151	13,450				13,441		13,495	13,700				13,997
茨城あきたこまち	日本コメ市場 (取引会)	12,834												14,043
栃木コシヒカリ	日本コメ市場 (随時)				13,200	13,147	13,500	13,586	13,601	13,725	13,765	14,168		
	日本コメ市場 (取引会)					13,145							14,350	
栃木あさひの夢	日本コメ市場 (取引会)					12,900	12,919							
千葉ふさこがね	日本コメ市場 (取引会)		12,913						13,310					
千葉ふさおとめ	日本コメ市場 (取引会)	12,661												
新潟コシヒカリ (一般)	日本コメ市場 (随時)										14,717	14,864	14,933	
	日本コメ市場 (取引会)		15,231			14,400	14,325		14,117	13,950			15,300	
富山コシヒカリ	日本コメ市場 (取引会)												14,412	14,550

出典： 日本コメ市場株式会社HP

注：1 日本コメ市場 (随時) の価格は、随時取引 (取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引) の下期 (16日～月末分)。ただし、下期が公表されていない場合は上期) の価格で、関東到着基準、1等、包装代込の価格。

2 日本コメ市場 (取引会) の価格は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において日本コメ市場、クリスタルライスの共同で開催される取引会での成約価格 (取引数量により加重平均) であり、関東到着基準、1等、包装代込みの価格。

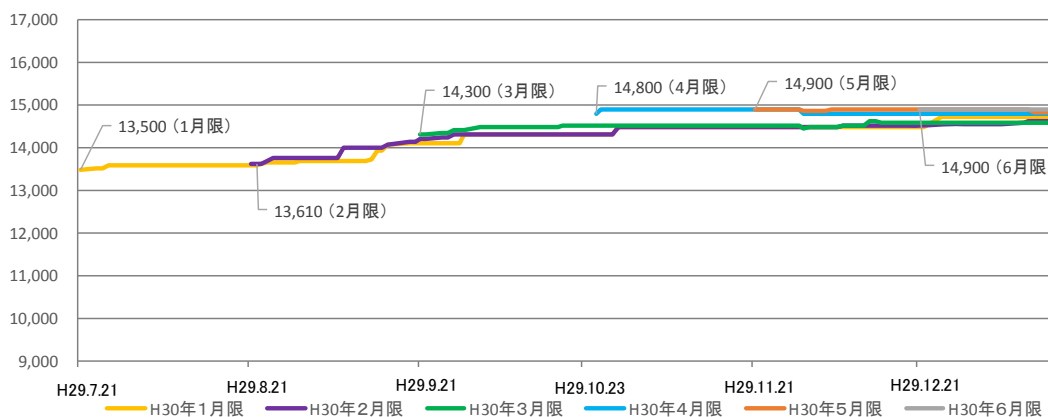
## 2 米の先物取引価格の推移

- 米の先物取引価格（1月15日）は、先月（12月15日）に比べ終値で、東京コメが▲60円/60kg（5月限）～+240円/60kg（1月限）、大阪コメが±0円/60kg（2、3、4、5、6月限）、新潟コシが▲370円/60kg（8月限）～+280円/60kg（2月限）。

### ①東京コメ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

税抜価格



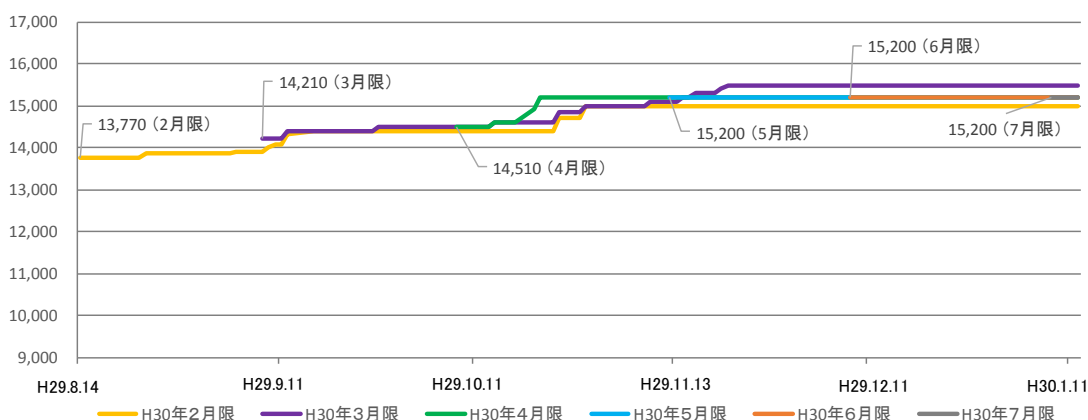
出典：大阪堂島商品取引所

注：平成29年7月21日から平成30年1月15日までの価格の推移である。

### ②大阪コメ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

税抜価格



出典：大阪堂島商品取引所

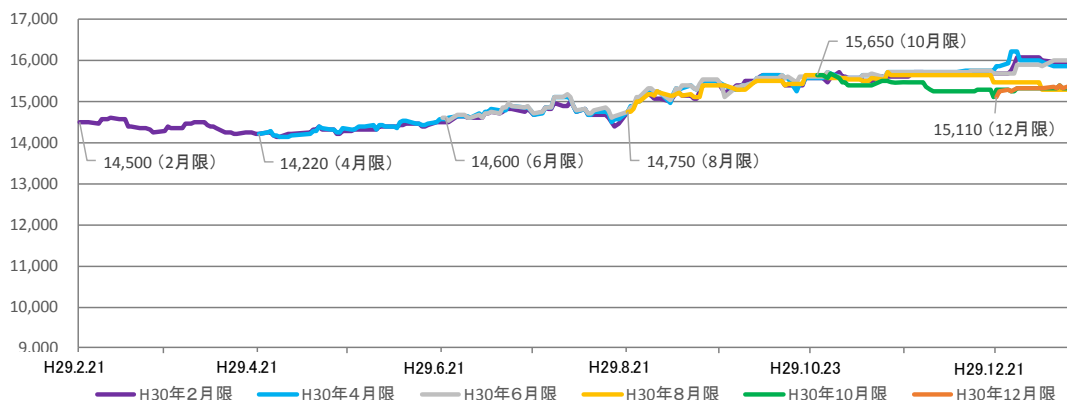
注：平成29年8月14日から平成30年1月15日までの価格の推移である。

### ③新潟コシ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

税抜価格

※10月限より新穀（平成30年産）



出典：大阪堂島商品取引所

注：平成29年2月21日から平成30年1月15日までの価格の推移である。

### 3 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成29年12月分)

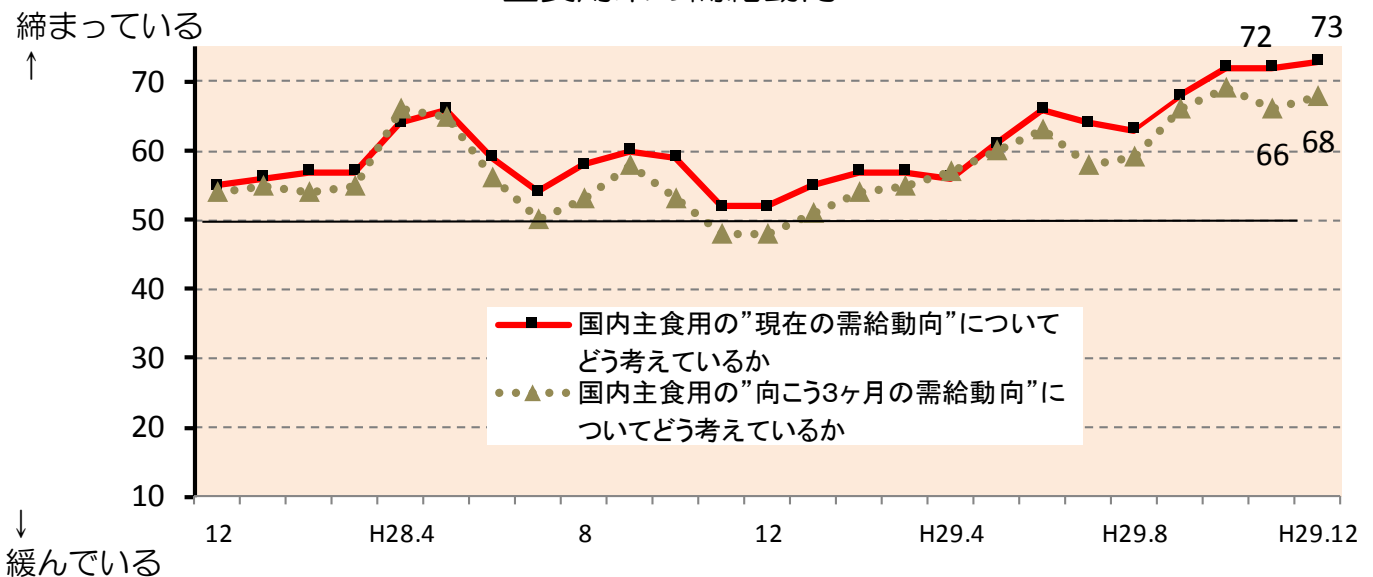
- 米穀機構が公表している米取引関係者の判断に関する調査(平成29年12月分)によると、主食用米の需給動向は、前月に比べ現状判断は+1ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は+2ポイント。

#### 国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

##### ① 主食用米の需給動向

(ア) 現状判断D I	前月からの増減 + 1 (今月の数値 73)
(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)	前月からの増減 + 2 (今月の数値 68)

#### 主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来)締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来)緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

以上の他、「自社の取引状況に関する判断(業態ごと)」など  
詳細な情報は、米穀機構ホームページ(米ネット)を参照ください。  
【<http://www.komenet.jp/>】  
また、マンスリーレポート(資料編)にも掲載しております。

##### 《アンケート方法等》

- 調査期間: 毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答
- 調査方法: 電子メールを利用したアンケート調査
- 調査対象者: 全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の164客体
- 有効回答数: 124客体
  - 生産者…………… 8
  - 集出荷業者/団体…………… 23
  - 卸売業者(主に主食用米) …… 28
  - 小売業者/中食・外食業者 …… 48
  - その他…………… 17

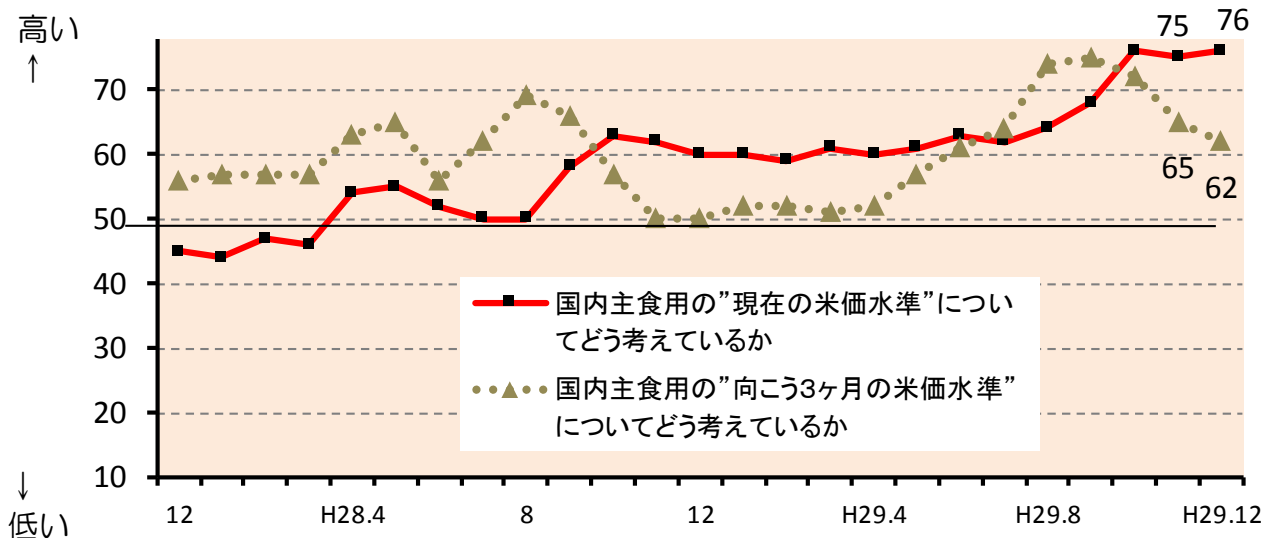
※「その他」は以下の業者です。  
・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者  
・加工原材料米穀を使用し、加工食品(酒類を含む)を製造・販売する者

- 米価水準は、前月に比べ現状判断は+1ポイント、見通し（向こう3ヶ月）判断は▲3ポイント。

② 主食用米の米価水準

(ア) 現状判断D I 前月からの増減 +1 (今月の数値 76)  
 (イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月) 前月からの増減 ▲3 (今月の数値 62)

主食用米の米価水準



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

《利用上の注意》

○ 表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳が一致しないことがあります。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断(評価)にそれぞれ点数(評価点)を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じてDIを算出します。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ(量感)を表すものではありません。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが観測されることに注意が必要です。

《DIの算出例》

問: 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				



## Ⅳ 主食用米以外（輸出を含む）

### 1 29年産米の作付状況

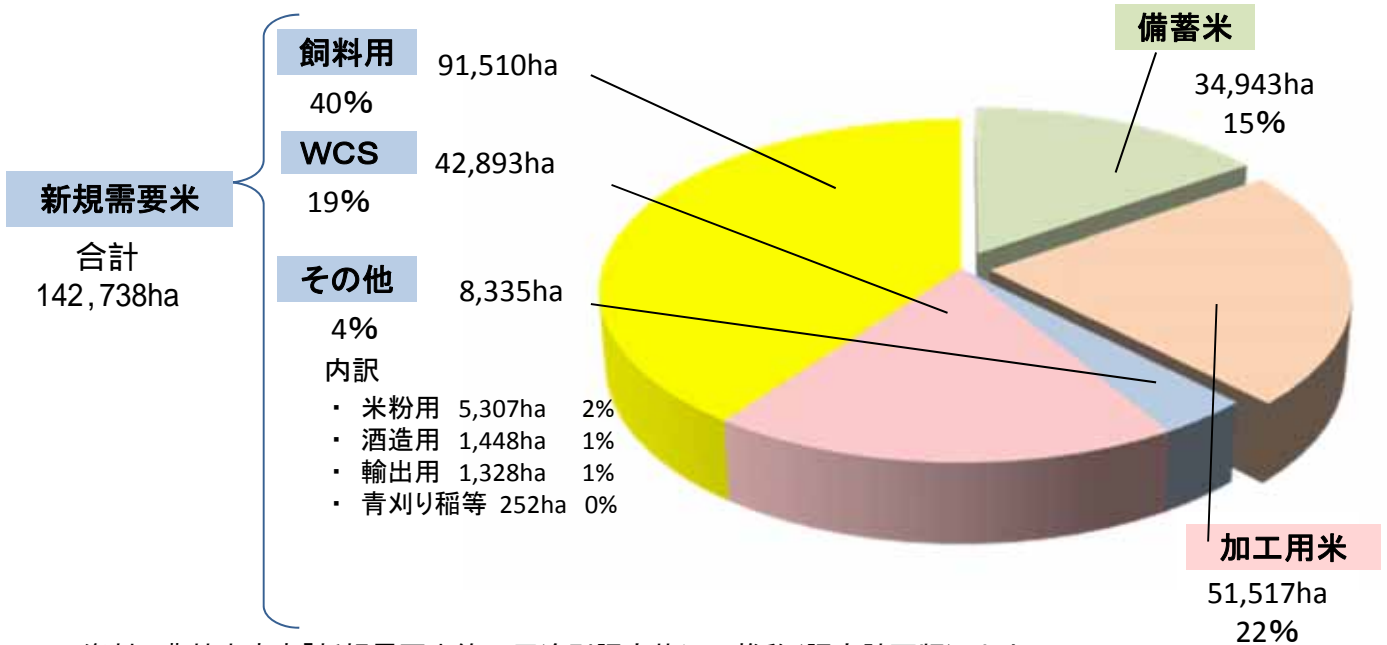
- 平成29年産米の作付面積は、主食用米が137.0万ha、主食用米以外が約23万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米14.3万ha、加工用米5.2万ha、備蓄米3.5万ha。

#### (1) 29年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積（万ha）	160.0	137.0	14.3	5.2	3.5
生産量（万トン）		731	53	28	20

※主食用米の生産量は、農林水産省「平成29年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）」の予想収穫量である。  
 ※新規需要米のうちWCS、青刈り等、子実を持たないものは、生産量に計上していない

#### (2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：農林水産省「新規需要米等の用途別認定状況の推移（認定計画版）」より

なお、備蓄米作付面積は、都道府県農業再生協議会からの29年度報告値。

注：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

#### (3) 新規需要米の用途別認定状況

	新規需要米（29年産）							
	飼料用	米粉用	輸出用	酒造用	稲発酵粗飼料稲	青刈り稲等	その他	
作付面積（ha）	91,510	5,307	1,328	1,448	42,893	241	11	
計画生産量（t）	483,325	28,331	7,349	7,424			31	

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況（認定計画版）」。

注1：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

## 2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成28米穀年度における使用量は対前年と同程度の約96万トン（推計）。
- 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約8割。残りの約2割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- 特定米穀の流通量の減少及び価格の上昇により、味噌を中心に、外国産原料への転換が見られたところ。

### (1) 28米穀年度（平成27年11月～28年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

#### <うるち米>

（単位：万トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	13 (10)	9		3			25 (10)
米菓用	1	2		6	3	1	12
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	5	5					10
味噌用		1		6	2		9
焼酎用 (泡盛含む)		2		4	2		8
米穀粉用		1	2	1	3	1	8
その他用	1	1		2	1		4
合計	20	21	2	21	11	1	77

#### <もち米>

（単位：万トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	3	2				2	8
米菓用	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	1						1
その他用						1	2
合計	6	5		1	2	5	19

注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。

注2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約8万トンを含んでいない。

注3： 焼酎は単式蒸留しょうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

注4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

注5： 特定米穀とは、水稻収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

注6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

#### 【推計根拠】

1 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）

焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）

米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用、その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等

2 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「酒造好適米の需要量調査」（農林水産省）等に基づく推計

加工用米・・・「需要に応じた米生産の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告

新規需要米（米粉用米）・・・「米粉をめぐる状況について」（農林水産省）による利用量

MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）

輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）

特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量

## (2) 加工原材料用米穀の使用状況(推計)の推移

### <うるち米>

(単位:万トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	26	11 (8)	9		4			24 (8)
	27	12 (9)	10		3			25 (9)
	28	13 (10)	9		3			25 (10)
米菓用	26	1	1		5	3	2	12
	27	1	2		7	2	1	13
	28	1	2		6	3	1	12
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26	5	5					10
	27	5	5					10
	28	5	5					10
味噌用	26		1		3	6		10
	27		1		7	1		9
	28		1		6	2		9
焼酎用 (泡盛含む)	26				6	3		9
	27		1		5	2		8
	28		2		4	2		8
米穀粉用	26		1	3	1	2	1	8
	27		1	2	2	2	1	8
	28		1	2	1	3	1	8
その他用	26	1			2	1		4
	27	1			2	1		4
	28	1	1		2	1		4
合計	26	18	18	3	21	14	3	77
	27	18	22	2	24	9	2	77
	28	20	21	2	21	11	1	77

### <もち米>

(単位:万トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
包装もち用	26	3	1			1	2	7
	27	3	2				2	7
	28	3	2				2	8
米菓用	26	2	1			1	2	6
	27	2	1		1	1	2	6
	28	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	26	1					1	3
	27	1					1	3
	28	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26							1
	27	1						1
	28	1						1
その他用	26						2	2
	27						1	2
	28						1	2
合計	26	7	3		1	2	7	19
	27	7	4		1	1	6	19
	28	6	5		1	2	5	19

注1: 清酒用の( )書きは、酒造好適米で内数。

2: 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米を含んでいない。

3: 焼酎は単式蒸留しょうちゆう(穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの(酒税法第3条第10号))であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4: その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5: 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75~1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米(一般的に「くず米」と呼ばれているもの)の総称。

6: ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

### 3 飼料用米の需要量

- 畜産側の平成29年産に係る飼料用米の需要量は、約120万トン。
  - ① 全農グループ飼料会社：年間約56万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米含まない数量）
  - ② (協)日本飼料工業会組合員工場：年間約44万トン～61万トン（MA米・備蓄米を含まない数量）
  - ③ 全国酪農農業協同組合連合会の年間使用可能数量は、約1万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
  - ④ 日本養鶏連の年間使用量は、約4万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
  - ⑤ 畜産農家の新規需要量：76件、約2万トン（平成29年6月30日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成29年3月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備考
北海道	88	ホクレンくみあい飼料
東北	217	J A全農北日本くみあい飼料
関東	146	J A東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	30	J A東日本くみあい飼料
東海	46	//
近畿・中国	46	J A西日本くみあい飼料
四国	32	//
北九州	49	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	162	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合計	817	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。  
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。

※問い合わせ先: JA全農 耕種総合対策部飼料用米対策課 TEL: 03-6271-8279

② 日本飼料工業会組合員の工場の飼料用米需要量見込み（平成28年11月調査）

地区	需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	19~36	
東北	114~155	
関東	109~115	
中部	44~49	
関西	56~82	
九州	88~177	
合計	436~608	

注1) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提、価格水準により需要量は変動する。

注2) 上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。

注3) 四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー(工場)との仲介を実施。

※問い合わせ先: 「飼料用米ダイヤル」TEL: 03-3583-8031 E-mail: Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	原料タンクの調整が必要
合計	14.4	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。  
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先: 全国酪農農業協同組合連合会 購買部飼料製造課 TEL: 03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可能数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合計	35.2	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先: 日本養鶏連 事業部 TEL: 03-5296-7041

⑤ 畜産農家の平成29年産飼料用米の新規需要量（平成29年6月30日現在）

都道府県	新規需要量		うち確保済み	
	件数	数量（トン）	件数	数量（トン）
北海道	1	未定		
宮城県	1	2,400		
岩手県	4	3,000	2	2,850
茨城県	2	40		
群馬県	4	113	1	1
埼玉県	1	40		
千葉県	6	2,103	0	227
山梨県	12	430		
長野県	8	1,307	7	757
静岡県	1	5		
愛知県	4	370	4	370
大阪府	3	14		
奈良県	5	1,610	2	380
広島県	1	1		
香川県	4	110		
福岡県	4	219		
長崎県	9	1		
大分県	2	2,100	0	60
宮崎県	2	2,425		
鹿児島県	2	2,000		
合計	76	18,288	16	4,645

※供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載

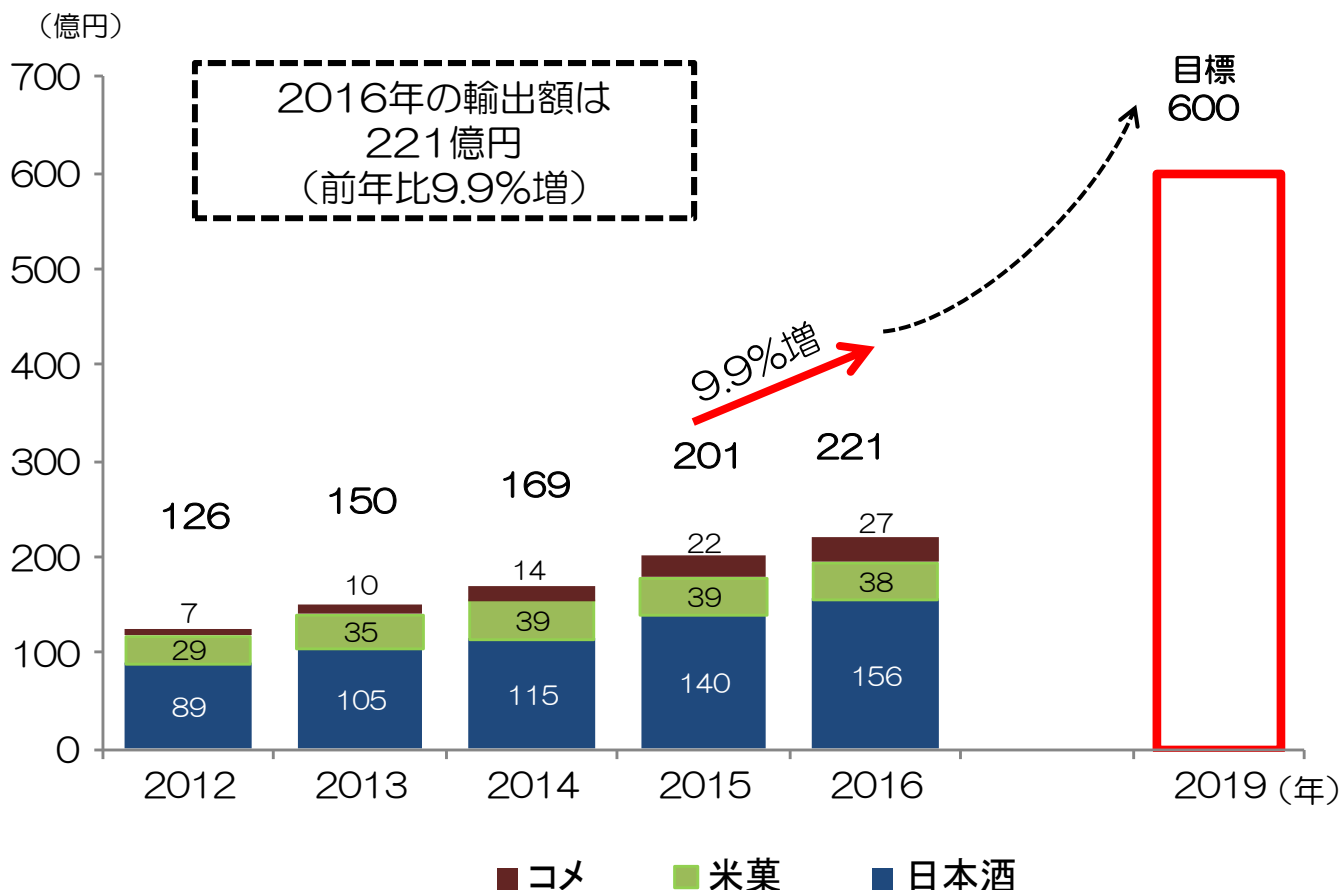
※一部確保済みの場合、件数0と記載

※問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL:03-3502-5993

## 4 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年（平成32年）までに600億円とすることが決定。
- 2020年（平成32年）の輸出額1兆円目標について、「未来への投資を実現する経済対策」（平成28年8月決定）において、平成31年に1年前倒しすることとされ、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- 2016年の輸出額は、221億円（前年比9.9%増）。

### コメ・コメ加工品の輸出状況



### コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

	日本酒		米菓		コメ	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
2012年	14,131	8,946	3,123	2,902	2,202	726
2013年	16,202	10,524	3,606	3,487	3,121	1,030
2014年	16,314	11,507	4,012	3,944	4,516	1,428
2015年	18,180	14,011	3,679	3,869	7,640	2,234
2016年	19,737	15,581	3,567	3,808	9,986	2,709

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）  
注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。



## 5 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

### 2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を、平成31年までに600億円とすることとしている。

### 輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

#### 【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール



#### 【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国



#### 【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港



### 輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

日本産米輸出の統一ロゴマーク



THIS IS  
JAPAN QUALITY  
日本のおいしい米。



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク

## V 支援事業等

### (1) 水田活用の直接支払交付金

- 水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力を向上。

### 水田活用の直接支払交付金(1)

【平成30年度予算概算決定額:3,304(3,150)億円】

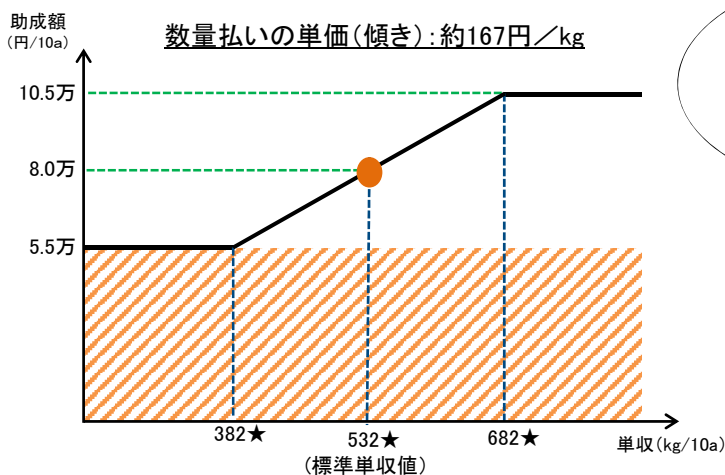
#### (1) 支援内容

##### ① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円/10a

※ 子実用とうもろこし(飼料用)を含む

#### <飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ>



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- ★は全国平均の平年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用します。なお、各地域における標準単収値を当年産の作柄(作柄表示地帯別)に応じて調整します。

#### <標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{配分単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平年収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

## 水田活用の直接支払交付金(2)

### ② 産地交付金

- 地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、地域の裁量で活用可能な産地交付金により、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援
- また、取組に応じた配分(下表参照)を都道府県に対して行う

対象作物	取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米	多収品種への取組	1.2万円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組 ※継続分のみ。	1.2万円/10a
そば、なたね	作付の取組 ※基幹作のみ。	2.0万円/10a

上記のほか、以下の取組に応じた配分を都道府県に対して行う

- ① 転換作物拡大 (1.0万円/10a)  
前年度実績よりも転換作物が拡大し、主食用米の作付面積が減少した場合に、その面積に応じて配分
- ② コメの新市場開拓 (2.0万円/10a)  
内外の新市場の開拓を図る米穀の作付面積に応じて配分
- ③ 畑地化 (10.5万円/10a)  
水田の畑地化面積(交付対象水田からの除外面積)に応じて配分

# 水田活用の直接支払交付金の支払面積等(1)

- 支払対象者数は45万7千件で、平成27年度の支払実績と比べて2万1千件減少。
- 支払面積は、戦略作物全体では57万8千haと、平成27年度に比べて2万4千ha増加。
- 作物別には、
  - (ア) 麦は、北海道、九州地方を中心に作付けがやや増加し、2千ha増の17万2千ha
  - (イ) 大豆は、北海道、東北、北陸地方及び熊本県で作付けが増加し、3千ha増の11万6千ha
  - (ウ) 飼料作物は、東北、九州地方を中心に作付けがやや増加、2千ha増の10万5千ha。
  - (エ) 新規需要米（WCS用稲、米粉用米、飼料用米）は、主食用米からの転換が全国的に進み、米粉用米を除いて作付けが増加、1万4千ha増の13万5千ha。
  - (オ) 加工用米は、4千ha増の5万ha。

## (1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)	支払対象者		
		個人	法人	集落営農
平成28年度	457,225	440,118	11,037	6,070
平成27年度	478,293	461,858	9,931	6,504
対前年度比較	▲ 21,068	▲ 21,740	+ 1,106	▲ 434

## (2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積

### ① 基幹作物＋二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)		
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね	備蓄米
平成28年度	172,305	115,734	104,943	135,371	41,106	3,501	90,764	49,981	578,334	35,551	792	39,333
平成27年度	170,590	113,016	103,234	121,533	37,860	4,206	79,467	46,157	554,529	34,125	585	43,771
対前年度比較	+ 1,715	+ 2,718	+ 1,709	+ 13,839	+ 3,246	▲ 705	+ 11,298	+ 3,824	+ 23,805	+ 1,426	+ 207	▲ 4,438

### ② 基幹作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	99,365	87,941	72,441	135,370	41,105	3,501	90,764	47,817	442,935	26,038	649
平成27年度	98,950	85,805	72,176	121,528	37,860	4,206	79,462	44,098	422,556	25,019	471
対前年度比較	+ 416	+ 2,136	+ 265	+ 13,843	+ 3,246	▲ 705	+ 11,302	+ 3,719	+ 20,379	+ 1,019	+ 178

### ③ 二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	72,939	27,793	32,502	1	1	—	0	2,165	135,399	9,513	142
平成27年度	71,640	27,211	31,057	5	—	—	5	2,059	131,973	9,106	114
対前年度比較	+ 1,299	+ 582	+ 1,445	▲ 4	+ 1	—	▲ 5	+ 105	+ 3,427	+ 407	+ 29

## 水田活用の直接支払交付金の支払面積等(2)

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
  - (ア) 米粉用米では、3千5百ha（7百ha減）、1万9千トン（4千トン減）542kg/10a。
  - (イ) 飼料用米では、8万9千ha（1万1千ha増）、49万6千トン（6万4千トン増）、558kg/10a。

### (3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

	米粉用米			飼料用米		
	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)
平成28年度	3,487	18,896	542	88,900	496,017	558
平成27年度	4,180	22,519	539	77,731	431,696	555
対前年度比較	▲ 693	▲ 3,623	+ 3	+ 11,168	+ 64,321	+ 3

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算定。数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

### (4) 耕畜連携助成の支払面積

(単位:ha)

	飼料用米 のわら 利用	水田放牧	資源循環 の取組	合計
平成28年度	23,055	1,298	28,208	52,560
平成27年度	19,866	1,299	25,636	46,800
対前年度比較	+ 3,189	▲ 1	+ 2,572	+ 5,760

## 米の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は77万8千件で、平成27年度に比べて4万2千件減少。
- 支払面積は94万4千ha（10a控除前：102万6千ha）で、平成27年度に比べて9千ha減少。

### (5) 米の直接支払交付金の支払対象者数、支払面積

	支払対象者数 (件)				支払面積 (ha)	(参考)
		個人	法人	集落営農		支払面積 10a控除前 (ha)
平成28年度	778,026	765,175	8,651	4,200	943,757	1,026,079
平成27年度	820,373	808,023	7,806	4,544	953,064	1,039,251
対前年度比較	▲ 42,347	▲ 42,848	+ 845	▲ 344	▲ 9,307	▲ 13,172

## (2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

### 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【平成30年度予算概算決定額： 2,065(1,950)億円】

#### (1) 支援内容（数量払）

##### ① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハフ・中華麺用品種:60kg当たり)	8,990円	8,490円	8,340円	8,280円	7,830円	7,330円	7,180円	7,120円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,690円	6,190円	6,040円	5,980円	5,530円	5,030円	4,880円	4,820円
二条大麦 (50kg当たり)	5,520円	5,100円	4,980円	4,930円	4,660円	4,240円	4,110円	4,060円
六条大麦 (50kg当たり)	6,000円	5,580円	5,450円	5,400円	4,970円	4,550円	4,430円	4,380円
はだか麦 (60kg当たり)	8,610円	8,110円	7,960円	7,870円	7,040円	6,540円	6,390円	6,310円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A~Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

##### ② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	9,940円	9,250円	8,570円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,890円		

特定加工用:豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

##### ③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,470円	15,360円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

##### ④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,940円	9,200円

##### ⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+ 62円	7,180円	▲ 62円

糖度:てん菜の重量に対するショ糖の含有量

##### ⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+ 64円	11,610円	▲ 64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量



## (2) 支援内容（面積払（営農継続支払））

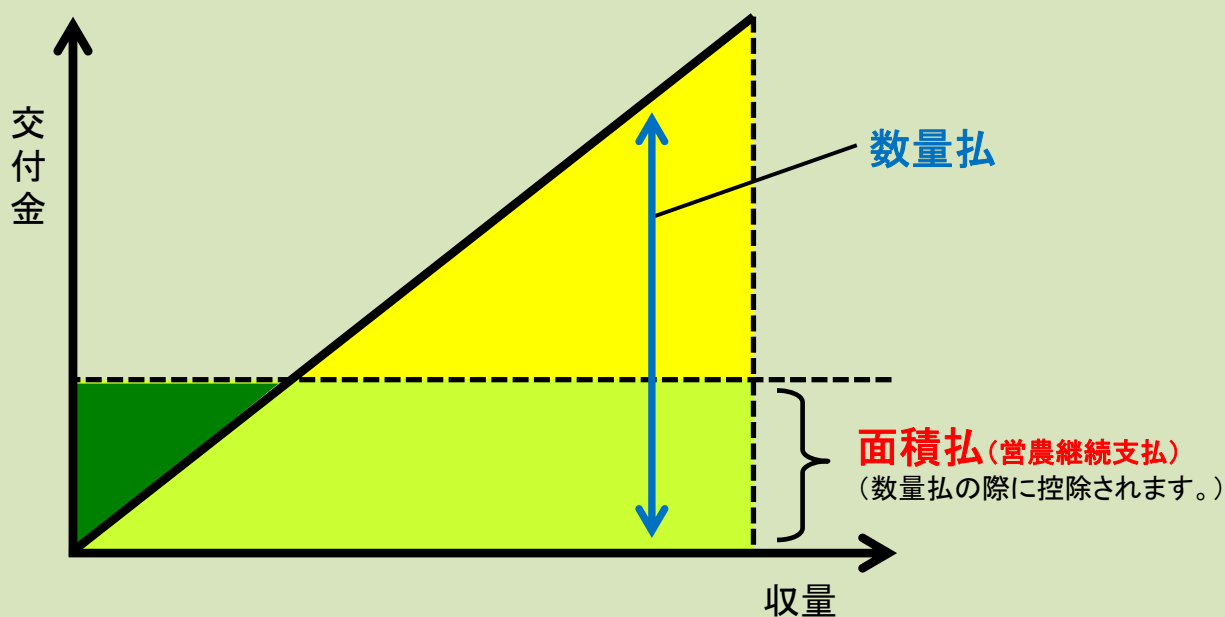
### ① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

### ② 交付単価

10aあたり2万円  
※「そば」は、10aあたり1万3千円

### ③ 数量払と面積払（営農継続支払）の関係



#### 交付対象者

※ 交付対象者に変更ありません。

**認定農業者、集落営農、認定新規就農者**  
(いずれも規模要件は課しません。)

#### 対象作物

麦、大豆、そば、なたね  
てん菜、でん粉原料用ばれいしょ(北海道産のみ)  
(ビール用麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象外)

### (3) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

#### 米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)

【平成30年度予算概算決定額：746(746)億円(所要額)】

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）は、農家抛出を伴う経営に着目したセーフティーネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

#### (1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません）。

※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に行われると判断するものとします。

#### (2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

- ※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。
- ※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

#### 【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5カ年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3カ年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

#### 【10a当たり当年産収入額とは】

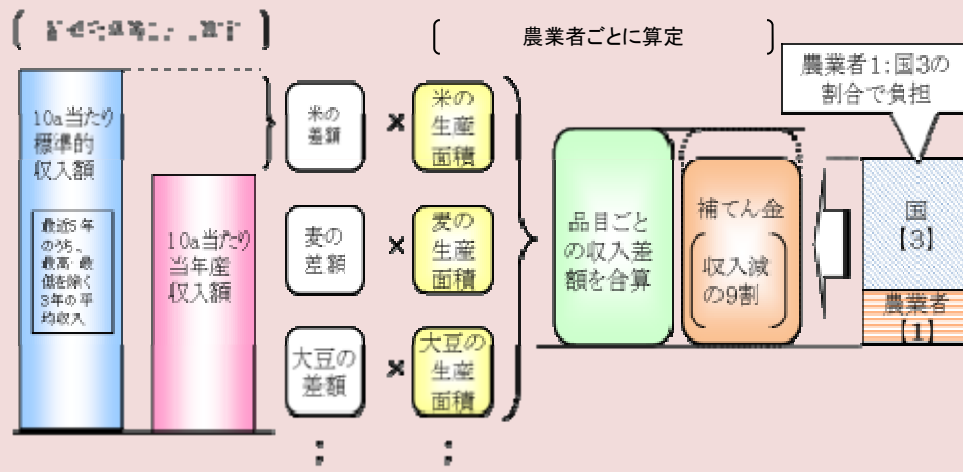
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

#### (3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の抛出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(参考) 平成28年産ナラシ対策の支払い実績 (平成29年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県			加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)	(参考1) ※ 米の10a当たり 補てん単価 (円/10a)	(参考2) ※ 米加入面積10haの 場合の補てん額の推計 (万円)
全 国			106,991	57,064	178.65		
北 海 道			19,529	14,857	100.47	0	0
東 北	青 森 県		5,082	24	0.02	0	0
	岩 手 県		3,329	3,125	4.73	3,010	30
	宮 城 県		4,291	4,102	5.89	386	3
	秋 田 県		8,602	188	0.32	0	0
	山 形 県		7,597	1	0.00	0	0
	福 島 県		4,878	4,717	0.48	149	1
関 東	茨 城 県		3,140	2,988	3.40	3,612	36
	栃 木 県		5,230	874	1.32	0	0
	群 馬 県		943	302	0.62	0	0
	埼 玉 県		1,252	1,193	0.70	886	8
	千 葉 県		1,088	1,064	0.46	713	7
	東 京 都		3	3	0.00	1,101	11
	神 奈 川 県		125	124	0.03	1,806	18
	山 梨 県		129	116	0.09	3,849	38
	長 野 県		1,429	1,351	3.10	2,989	29
	静 岡 県		326	321	0.78	3,099	30
北 陸	新 潟 県		12,546	4,140	4.58	0	0
	富 山 県		1,506	377	2.53	0	0
	石 川 県		1,783	1,672	0.93	567	5
	福 井 県		1,163	194	0.12	0	0
東 海	岐 阜 県		663	642	3.46	2,485	24
	愛 知 県		614	463	3.44	145	1
	三 重 県		919	446	2.07	0	0
近 畿	滋 賀 県		2,324	2,291	7.42	2,472	24
	京 都 府		325	298	0.14	1,297	12
	大 阪 府		31	30	0.00	270	2
	兵 庫 県		1,109	860	0.75	2,405	24
	奈 良 県		91	80	0.09	8,366	83
	和 歌 山 県		73	0	0.00	0	0
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県		399	380	0.99	3,693	36
	島 根 県		719	98	0.20	0	0
	岡 山 県		858	50	0.15	0	0
	広 島 県		516	32	0.06	0	0
	山 口 県		827	769	0.80	538	5
	徳 島 県		160	10	0.01	0	0
	香 川 県		626	591	0.87	670	6
	愛 媛 県		628	601	0.98	4,151	41
	高 知 県		264	222	0.03	1,469	14
九 州	福 岡 県		2,084	1,282	7.76	0	0
	佐 賀 県		1,573	1,538	14.14	4,380	43
	長 崎 県		753	698	0.20	62	0
	熊 本 県		3,422	1,586	2.31	0	0
	大 分 県		1,353	515	1.36	0	0
	宮 崎 県		1,702	1,512	0.77	2,073	20
沖 縄 県		887	337	0.10	0	0	
沖 縄 県		100	0	0.00	0	0	

(注1) 加入件数は、平成28年7月31日時点(熊本県は9月末時点)の積立金納付者の件数である。

(注2) 支払件数及び補てん総額は、平成29年8月31日時点の数値である。

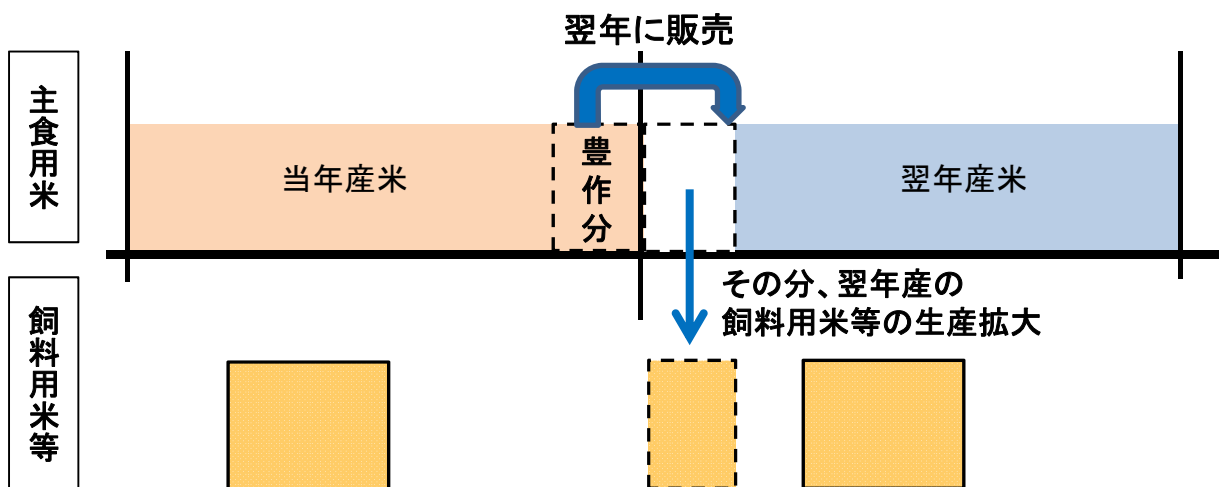
(注3) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

※ 米の10a当たり補てん単価及び米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、20%コースの場合。米のみで試算したものであり、実際の支払では、麦・大豆等との合算相殺がある。また、(参考2)の米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、表記上、1万円未満は切り捨てている。

## (4) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

### ① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：30年度予算概算決定額50億円（対前年同額））
- 平成30年産に向けては、必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。  
（水田活用の直接支払交付金：30年度予算概算決定額 3,304億円（対前年+154億円））



### ② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

- 業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催に対して支援。
- 産地の自主的な取組により、需要に応じた生産・販売が行われる環境整備を図る観点から、気象の影響等により必要が生じた場合には、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施する体制を構築していくことが必要。
- あらかじめ生産者等が積立てを行い、産地の取組を実施する場合に国も一定の支援。

#### 全国事業

業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催支援(定額)

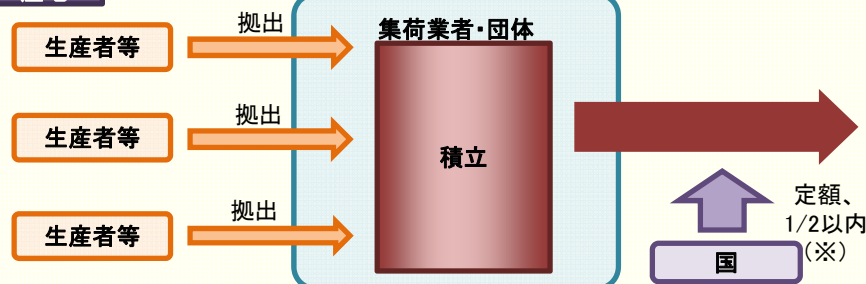
〔業務用米取引セミナー〕

〔展示商談会〕

民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援。  
→ 生産者と実需者の連携(マッチング)促進による安定供給の拡大



#### 産地



#### 産地自らの自主的な取組

- 主食用米の
- ① 周年安定供給のための長期計画的な販売
  - ② 輸出用向けの販売促進等
  - ③ 業務用向け等の販売促進等
  - ④ 非主食用への販売
- (※) 値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

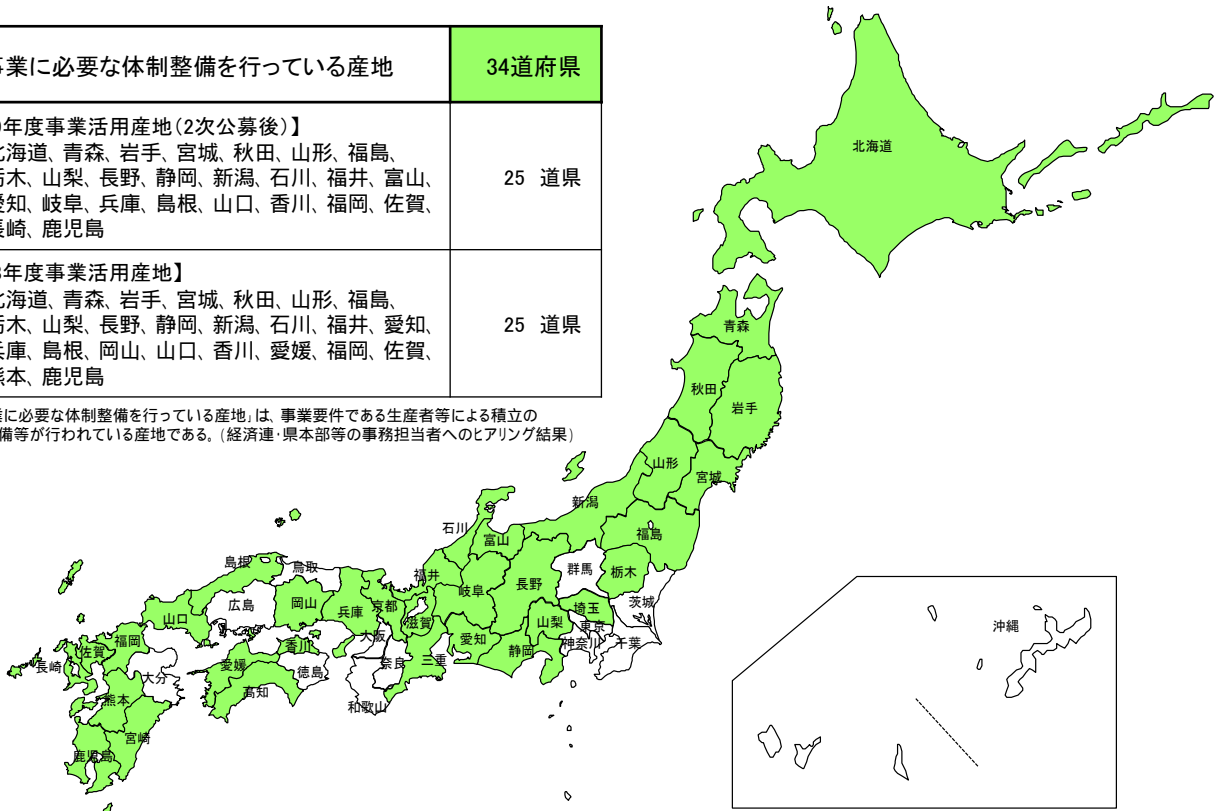
また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援。

③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備状況

- 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備は、34道府県で行われている状況。
- 各産地の事業の活用状況は、平成27年度17道県（18事業者）、平成28年度25道県（27事業者）、平成29年度25道県（27事業者）が活用。
- 出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

事業に必要な体制整備を行っている産地	34道府県
【29年度事業活用産地(2次公募後)】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、 栃木、山梨、長野、静岡、新潟、石川、福井、富山、 愛知、岐阜、兵庫、鳥根、山口、香川、福岡、佐賀、 長崎、鹿児島	25 道県
【28年度事業活用産地】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、 栃木、山梨、長野、静岡、新潟、石川、福井、愛知、 兵庫、鳥根、岡山、山口、香川、愛媛、福岡、佐賀、 熊本、鹿児島	25 道県

注) 「事業に必要な体制整備を行っている産地」は、事業要件である生産者等による種立の体制整備等が行われている産地である。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャラクター(マツコ・デラックス)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「ゆめぴりか」のPR</li> <li>認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討</li> </ul>
秋田	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャラクター(小芝 風花)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「あきたこまち」のPR</li> <li>食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布</li> <li>外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施</li> </ul>
山形	<p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬぎ」PRキャンペーンの開催</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャラクター(V6 長野 博)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「はえぬぎ」のPR</li> <li>販路拡大に向けたコンサルティング活動</li> </ul>
新潟	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種メディアを活用した新潟県産米のPR</li> <li>JRエキナカ店舗との連携による販売促進活動の実施</li> <li>インターネット調査による新潟県産米の認知度・消費者ニーズ等の把握</li> </ul>
石川	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種メディアを活用した石川県産米のPR</li> <li>毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催</li> </ul>



## VI 消費動向

### (1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向」（平成29年11月）によると、1人1ヵ月当たりの精米消費量は、前年同月との比較で+2.1%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月との比較で+3.4%、中・外食は同▲1.1%。

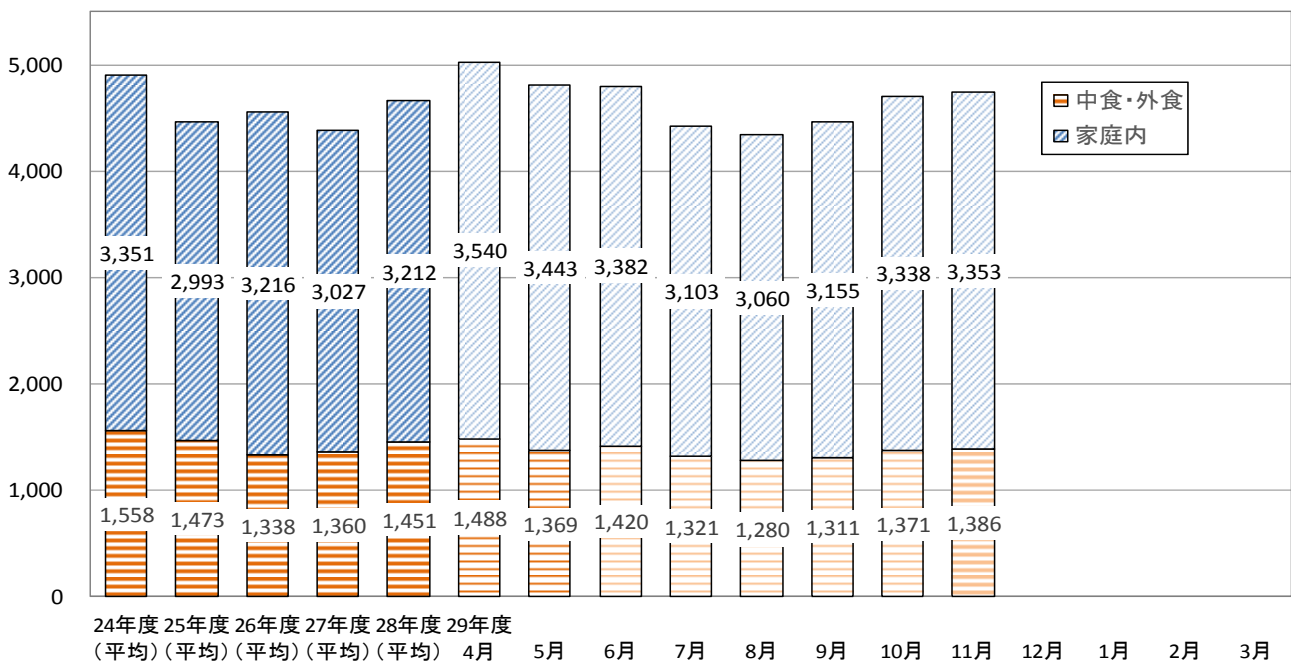
#### ① 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

(精米g/人、%)

		精米消費量					内訳(比率)					前年同月比(比率)				
		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食	
			中食	外食	中食	外食		中食	外食	中食	外食					
24年度	-	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲ 4.4	▲ 3.1	▲ 6.1
25年度	-	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲ 9.0	▲ 10.7	▲ 5.5	▲ 6.0	▲ 4.7
26年度	-	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲ 9.2	▲ 10.4	▲ 7.5
27年度	-	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲ 3.7	▲ 5.9	1.6	4.6	▲ 2.2
28年度	-	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4月	5,028	3,540	1,488	908	580	100.0	70.4	29.6	18.1	11.5	0.5	3.4	▲ 5.9	▲ 4.2	▲ 8.4
	5月	4,812	3,443	1,369	833	536	100.0	71.6	28.4	17.3	11.1	▲ 1.2	3.0	▲ 10.1	▲ 9.0	▲ 11.8
	6月	4,802	3,382	1,420	871	549	100.0	70.4	29.6	18.1	11.4	▲ 0.1	3.6	▲ 7.7	▲ 5.3	▲ 11.2
	7月	4,424	3,103	1,321	751	570	100.0	70.1	29.9	17.0	12.9	▲ 1.9	2.6	▲ 11.2	▲ 13.9	▲ 7.3
	8月	4,340	3,060	1,280	731	549	100.0	70.5	29.5	16.8	12.6	▲ 4.4	▲ 1.5	▲ 10.8	▲ 12.6	▲ 8.5
	9月	4,466	3,155	1,311	740	571	100.0	70.6	29.4	16.6	12.8	▲ 3.1	▲ 0.7	▲ 8.4	▲ 12.0	▲ 3.2
	10月	4,709	3,338	1,371	782	589	100.0	70.9	29.1	16.6	12.5	1.1	3.5	▲ 4.5	▲ 6.2	▲ 2.0
	11月	4,739	3,353	1,386	801	585	100.0	70.8	29.2	16.9	12.3	2.1	3.4	▲ 1.1	▲ 1.0	▲ 1.2

#### 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移(グラフ)

(精米g/人)



出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成29年11月分の有効調査世帯数は2,259世帯。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

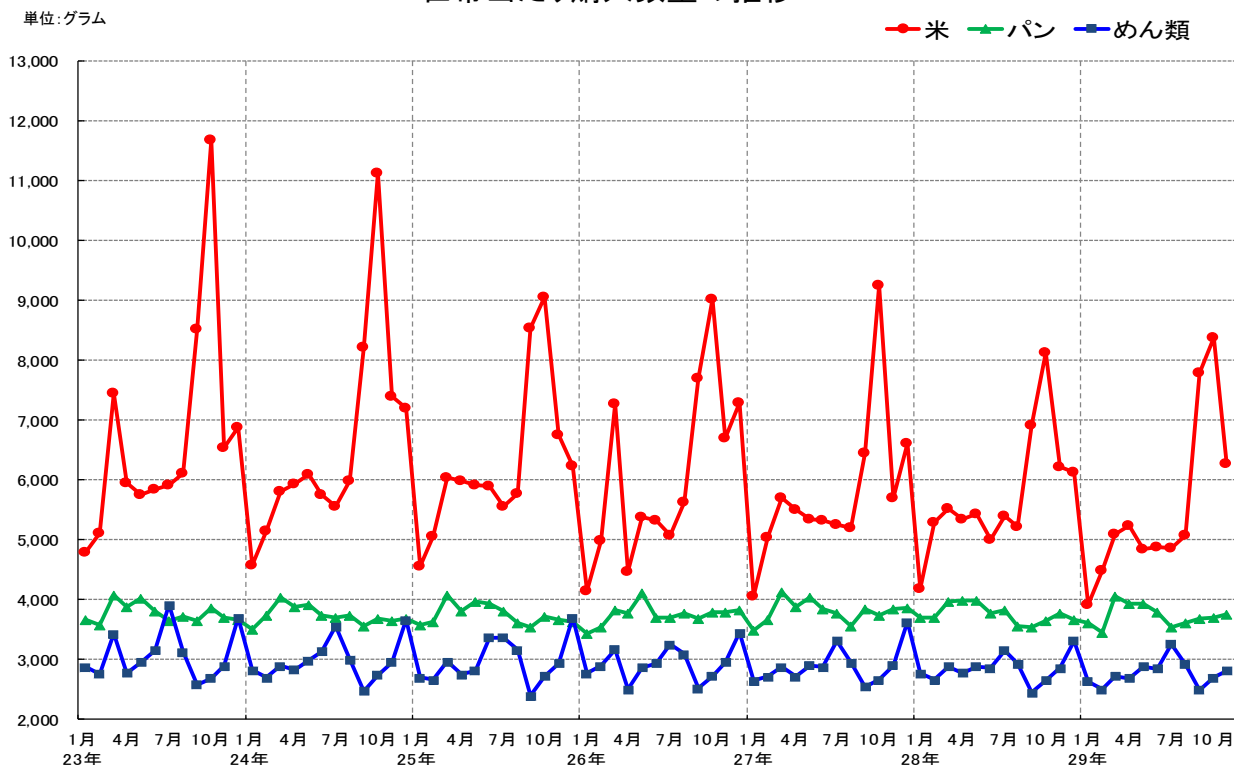
4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

## (2) 購入数量の推移（家計調査）

- 総務省が公表している家計調査によると、平成29年11月の米の購入数量は、前年同月との比較で+0.8%の6.3kg、パンについては▲0.8%の3.7kg、めん類については▲1.4%の2.8kg。

### 1世帯当たり購入数量の推移



### (表) 1世帯当たり購入数量の推移

(単位：グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
平成23年	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
平成24年	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
平成26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
平成27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
平成28年	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
平成29年1月	3,920	93.8%	3,607	97.7%	2,637	95.2%
2月	4,480	84.8%	3,457	93.6%	2,496	93.8%
3月	5,090	92.2%	4,056	102.4%	2,725	94.4%
4月	5,230	97.9%	3,929	98.8%	2,685	96.7%
5月	4,840	89.1%	3,925	98.3%	2,882	99.9%
6月	4,880	97.6%	3,790	100.6%	2,846	99.5%
7月	4,860	90.2%	3,548	92.6%	3,254	103.2%
8月	5,070	97.3%	3,609	101.4%	2,918	99.8%
9月	7,780	112.6%	3,674	103.9%	2,490	101.9%
10月	8,380	103.2%	3,698	101.2%	2,695	101.6%
11月	6,260	100.8%	3,748	99.2%	2,816	98.6%

資料：総務省「家計調査」

注：1 二人以上の世帯の数値である。

2 平成20年から平成28年については、年間の購入数量を示す。

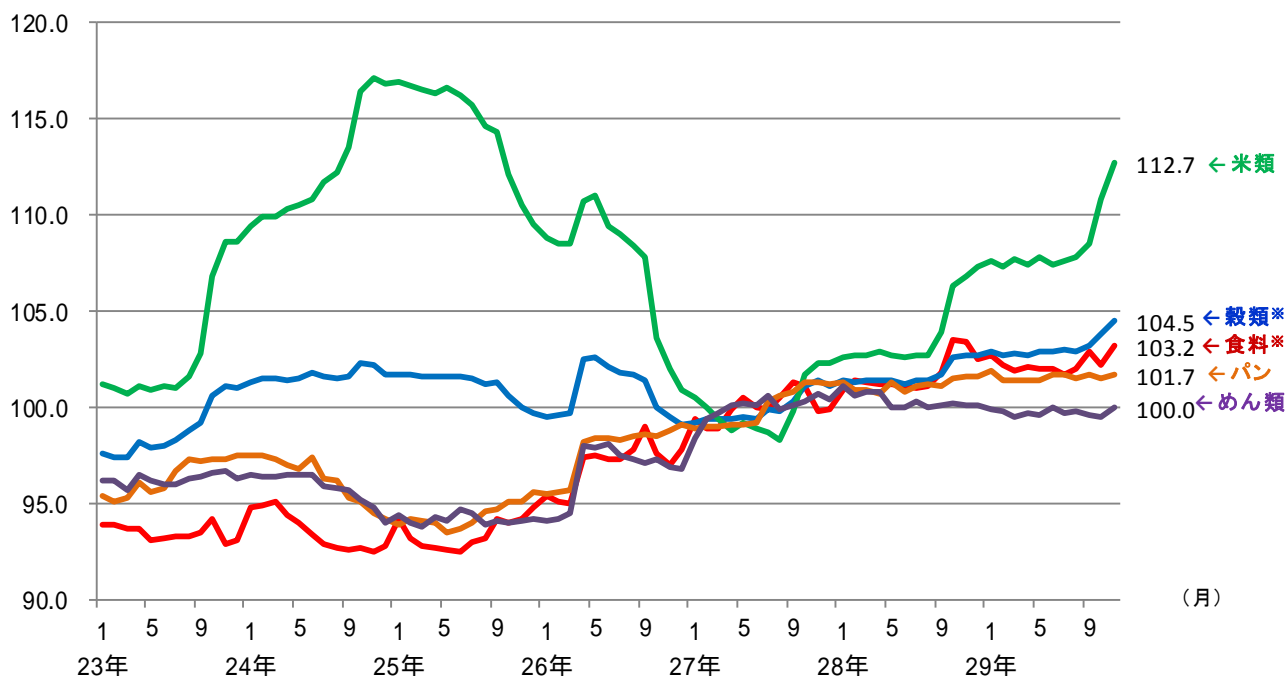
3 米は精米ベースである。



### (3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- ・ 総務省が公表している消費者物価指数によると、平成29年11月の米類の指数は、先月との比較では+1.7の112.7ポイント。
- ・ なお、前年同月との比較では+5.6ポイント。

#### 消費者物価指数の推移



- 注：1 図中の実線は、平成27年の平均価格を100とした数値となる。  
 2 図中の数値は、平成29年11月の消費者物価指数となる。  
 3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

(表) 消費者物価指数の推移（対前年同月比）

(平成27年=100、指数)

	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	
平成20年	93.9	2.6%	102.9	6.4%	110.7	▲1.3%	111.4	▲1.3%	99.8	12.6%	97.2	11.7%
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
平成29年1月	102.7	1.8%	102.9	1.5%	107.6	4.9%	108.0	5.2%	101.9	0.5%	99.9	▲1.1%
2月	102.2	0.8%	102.7	1.4%	107.3	4.5%	107.6	4.7%	101.4	0.5%	99.8	▲0.8%
3月	101.9	0.5%	102.8	1.3%	107.7	4.9%	108.1	5.1%	101.4	0.6%	99.5	▲1.3%
4月	102.1	0.9%	102.7	1.3%	107.4	4.4%	107.7	4.7%	101.4	0.7%	99.7	▲1.0%
5月	102.0	0.8%	102.9	1.4%	107.8	5.0%	108.1	5.3%	101.4	0.1%	99.6	▲0.4%
6月	102.0	0.8%	102.9	1.7%	107.4	4.6%	107.7	4.9%	101.7	0.9%	100.0	▲0.1%
7月	101.7	0.6%	103.0	1.5%	107.6	4.8%	107.9	5.0%	101.7	0.6%	99.7	▲0.5%
8月	102.0	0.9%	102.9	1.5%	107.8	4.9%	108.1	5.2%	101.5	0.3%	99.8	▲0.2%
9月	102.9	1.0%	103.2	1.4%	108.5	4.4%	108.9	4.6%	101.7	0.5%	99.6	▲0.5%
10月	102.2	▲1.3%	103.8	1.2%	110.8	4.2%	111.3	4.5%	101.5	▲0.1%	99.5	▲0.6%
11月	103.2	▲0.1%	104.5	1.7%	112.7	5.6%	113.3	5.9%	101.7	0.1%	100.0	▲0.1%

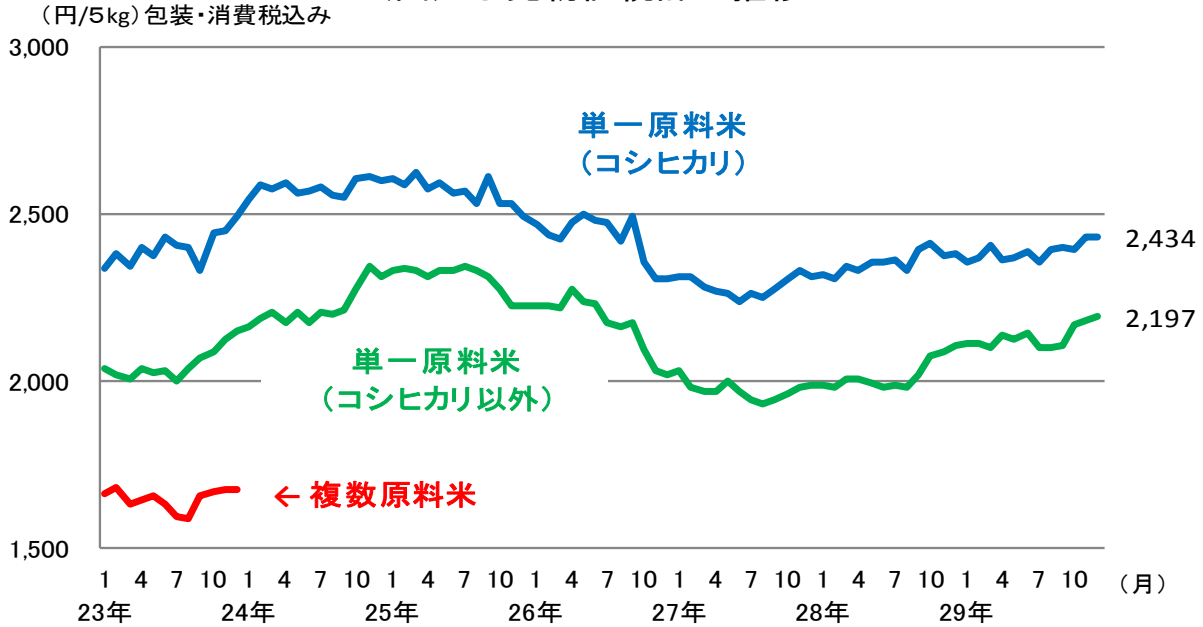
資料：総務省「消費者物価指数」（平成27年基準）

- 注：1 表中の数値は、平成27年の平均価格を100として指数化したものである。  
 2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。  
 3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。  
 4 平成20年から平成28年のデータは年平均、平成29年1月以降は月次データを用いている。

#### (4) 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、平成29年12月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、前年同月より+2.1%の2,434円。
- 単一原料米（コシヒカリ以外）は、前年同月より+4.3%の2,197円。

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位：円/5kg)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
平成21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
平成22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
平成23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
平成24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	-
平成25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	-
平成26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	-
平成27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	-
平成28年	2,355	3.1%	2,019	2.3%	-
平成29年1月	2,355	1.6%	2,111	6.1%	-
2月	2,370	2.6%	2,112	6.7%	-
3月	2,406	2.7%	2,100	4.6%	-
4月	2,362	1.4%	2,137	6.6%	-
5月	2,371	0.6%	2,124	6.5%	-
6月	2,385	1.2%	2,143	8.0%	-
7月	2,359	0.0%	2,098	5.4%	-
8月	2,391	2.5%	2,101	6.1%	-
9月	2,403	0.5%	2,108	4.4%	-
10月	2,395	▲0.7%	2,168	4.3%	-
11月	2,429	2.4%	2,185	4.7%	-
12月	2,434	2.1%	2,197	4.3%	-

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

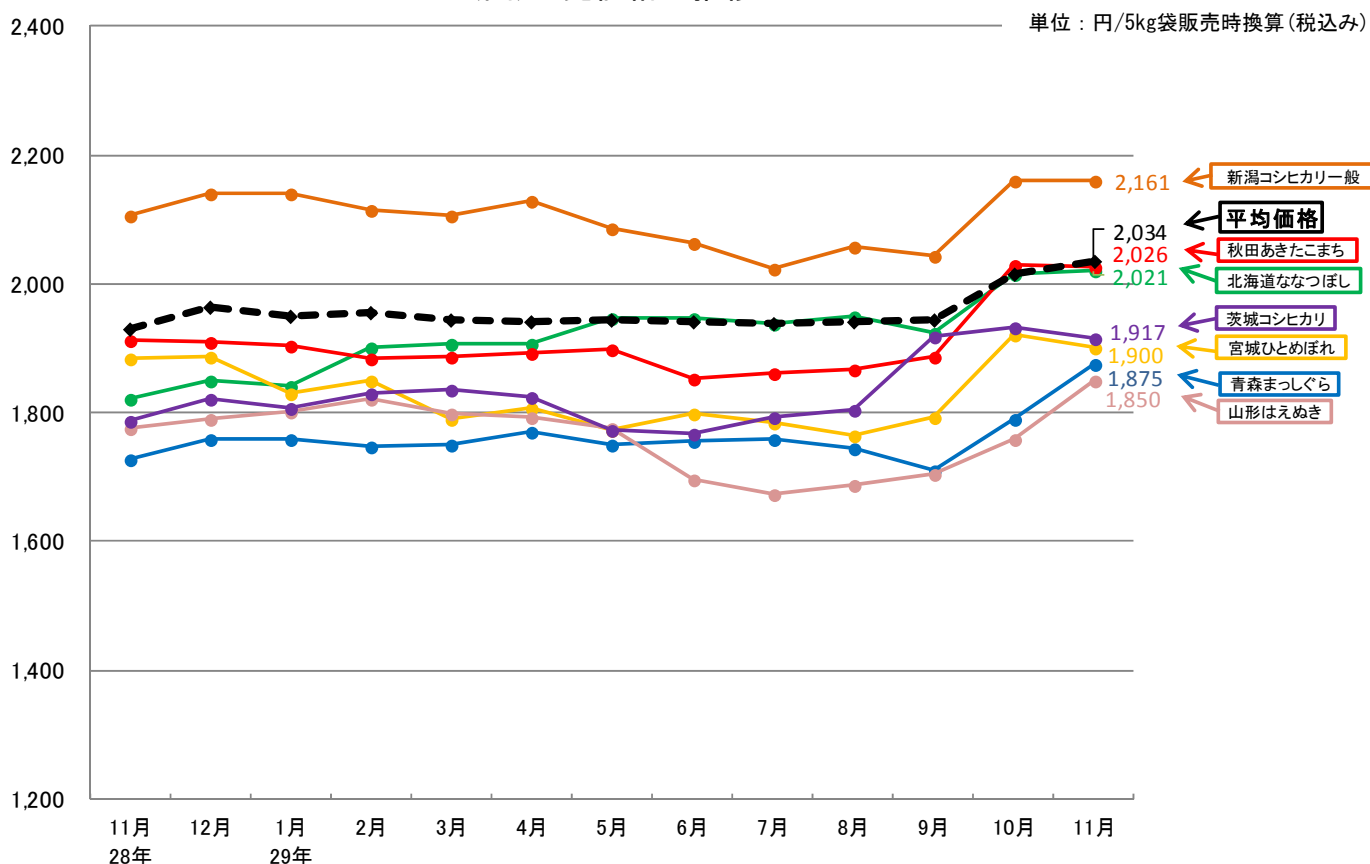
3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

## (5) 小売価格の推移 (POSデータ)

平成29年11月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、前月より+19円(+0.9%)、前年同月より+103円(+5.3%)の2,034円。

(図)小売価格の推移



(表)小売価格の推移

単位：円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄							全POS取引 平均価格
	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	
28年11月	1,823	1,727	1,885	1,913	1,776	1,788	2,106	1,931
12月	1,850	1,760	1,887	1,910	1,792	1,821	2,140	1,963
29年1月	1,843	1,759	1,830	1,905	1,802	1,808	2,141	1,949
2月	1,902	1,749	1,852	1,885	1,821	1,831	2,114	1,957
3月	1,907	1,751	1,792	1,887	1,798	1,835	2,105	1,945
4月	1,908	1,771	1,807	1,894	1,793	1,824	2,128	1,941
5月	1,948	1,750	1,775	1,898	1,776	1,773	2,086	1,944
6月	1,948	1,755	1,799	1,853	1,698	1,767	2,062	1,941
7月	1,939	1,759	1,784	1,862	1,673	1,795	2,023	1,937
8月	1,950	1,745	1,765	1,868	1,687	1,806	2,057	1,942
9月	1,925	1,710	1,794	1,886	1,705	1,918	2,045	1,945
10月	2,017	1,791	1,923	2,031	1,758	1,934	2,161	2,015
11月	2,021	1,875	1,900	2,026	1,850	1,917	2,161	2,034
対前月比	0.2%	4.7%	▲1.2%	▲0.2%	5.2%	▲0.9%	0.0%	0.9%
対前年同月比	10.9%	8.6%	0.8%	5.9%	4.2%	7.2%	2.6%	5.3%

資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注：1 (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,010店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

5 価格に含む消費税は8%である。

## Ⅶ MA米（一般・SBS）の動向

### （１） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タ イ	中 国	オースト ラリア	その他	合 計		
							うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	-	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	-	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	-	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度 (12月末現在)	233	180	42	48	1	504	429	75

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

## (2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位：実トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成29年4～6月分	30,226	平成29年4～7月分	3,071
4月分	405	平成29年8～11月分	2,704
5月分	678	平成29年12～平成30年3月分	
6月分	1,000		
7～9月分	30,935		
7月分	206		
8月分	602		
9月分	1,073		
10～12月分	35,130		
10月分	478		
11月分	719		
12月分	914		
平成30年1～3月分			
1月分			
2月分			
3月分			
小計	102,366	小計	5,775
合計	108,141		

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

## (3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位：実トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成29年9月27日)	一般米	15,150	496	140		900		5,814		22,500
	砕精米	1,998	100	300		100				2,498
第2回 (平成29年11月29日)	一般米	12,586	830	768		40		8,276		22,500
	砕精米	1,600	200	292	108	300				2,500
第3回 (平成29年12月20日)	一般米	11,265	1,160	2,206	90	340		7,439		22,500
	砕精米	1,888	100	260	252					2,500
合計	一般米	39,001	2,486	3,114	90	1,280	0	21,529	0	67,500
	砕精米	5,486	400	852	360	400	0	0	0	7,498
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000
平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,993	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	10,913	0	20,100
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	1,326	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	100	0	4,316
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	2,244	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	150	0	16,452
平成28年度計 (参考)	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	8,097	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	100	0	28,548

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成23～29年度

## VIII その他

### (1) 水稲うるち玄米の農産物検査結果

- 平成29年産水稲うるち玄米の平成29年11月30日現在の検査数量は、385万トン。
- 1等米比率は、82.6%。

#### ① 検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
24	13	223	1,732	3,750	4,156	4,313	4,411	4,532	4,657	5,041
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,869
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	4,929
参考:前年比	161%	105%	108%	102%	102%	102%	102%	101%	101%	101%
29	13	244	1,463	3,268	3,851					
参考:前年比	72%	105%	88%	92%	95%					

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値（平成28年産は速報値）である。

#### ② 検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,582	4,016,682	687,771	82,654	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28(注2)	4,928,533	4,110,481	668,729	67,436	81,887	83.4	13.6	1.4	1.7
29(注3)	3,850,837	3,180,118	567,346	59,963	43,410	82.6	14.7	1.6	1.1

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 28年産米については、平成29年10月31日現在（速報値）。

3 29年産米については、平成29年11月30日現在（速報値）。

## (2) 平成29年産水稻の収穫量

(平成29年12月5日公表)

- ・ 主食用作付面積は137万ha（前年産差 1.1万ha）の見込み
- ・ 10a当たり収量は534kg（前年産差 10kg）の見込み
- ・ 主食用の収穫量は730.6万ト（前年産差 19万ト）の見込み

### 調査結果の概要

- 1 平成29年産水稻の作付面積（子実用）は146.5万haとなり、前年産に比べ1.3万ha減少した。うち主食用作付面積は137万haとなり、前年産に比べ1.1万ha減少した。
- 2 平成29年産水稻の全国の10a当たり収量は534kgとなり、作柄の良かった前年産に比べ10kgの減少が見込まれる。  
また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は100となる見込み。
- 3 以上の結果、平成29年産水稻の収穫量（子実用）は782.2万トとなり、前年産に比べ22万トンの減少が見込まれる。このうち、主食用の収穫量は730.6万トとなり、前年産に比べ19万トンの減少が見込まれる。

### 平成29年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 農 業 地 域	水 稻							
	作付面積 (子実用) ①	10 a 当たり収量		収穫量 (子実用)		参 考		
		実数 ②	前年産 との比較	実数 ③=①×②	前年産 との比較	主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②	作況指数
			対差		対差			
ha	kg	kg	t	t	ha	t		
全 国	1,465,000	534	△ 10	7,822,000	△ 220,000	1,370,000	7,306,000	100
北 海 道	103,900	560	9	581,800	3,200	98,600	552,200	103
東 北	374,800	564	△ 12	2,115,000	△ 50,000	334,300	1,882,000	99
北 陸	204,100	529	△ 38	1,079,000	△ 86,000	180,100	952,100	98
関 東・東 山	268,500	533	△ 9	1,431,000	△ 34,000	257,400	1,372,000	99
東 海	92,400	498	△ 16	460,100	△ 20,200	90,500	450,000	99
近 畿	103,200	510	△ 6	526,600	△ 12,100	99,400	507,000	100
中 国	104,300	530	4	552,400	△ 4,900	101,200	536,100	103
四 国	49,900	486	△ 6	242,400	△ 8,100	49,500	241,000	101
九 州	163,100	510	3	831,900	△ 7,800	158,700	811,400	101
沖 縄	727	301	8	2,190	△ 110	727	2,190	97

注：1 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 収穫量(子実用)及び収穫量(主食用)については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

3 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

4 沖縄県については、本公表時点で一部収穫を終えていない地域があり、収穫の状況によっては今後作柄が変動することがある(以下同じ。)



## 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a当たり収量及び収穫量(子実用)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

### ふるい目幅別重量分布状況の推移

単位：%

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成24年産	100.0	0.6	1.0	1.5	2.2	13.0	81.7
25	100.0	0.8	1.3	1.9	2.7	14.5	78.8
26	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	14.7	78.4
27	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	15.3	77.8
28	100.0	0.7	1.2	1.7	2.4	14.0	80.0
29(概数値)	100.0	0.9	1.5	2.1	2.9	16.1	76.5
平均 値	100.0	0.7	1.3	1.8	2.5	14.3	79.4
対平均差(ポイント)	0.0	0.2	0.2	0.3	0.4	1.8	△ 2.9

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる(以下同じ。)

### ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量(子実用)の推移

年 産	単 位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上	
		平成24年産	10a 当たり収量	kg	540	537	531	523
	収穫量(子実用)	t	8,519,000	8,468,000	8,383,000	8,255,000	8,067,000	6,960,000
25	10a 当たり収量	kg	539	535	528	517	503	425
	収穫量(子実用)	t	8,603,000	8,534,000	8,422,000	8,259,000	8,027,000	6,779,000
26	10a 当たり収量	kg	536	532	524	513	499	420
	収穫量(子実用)	t	8,435,000	8,368,000	8,249,000	8,081,000	7,853,000	6,613,000
27	10a 当たり収量	kg	531	527	519	509	494	413
	収穫量(子実用)	t	7,986,000	7,922,000	7,810,000	7,651,000	7,435,000	6,213,000
28	10a 当たり収量	kg	544	540	534	524	511	435
	収穫量(子実用)	t	8,042,000	7,986,000	7,889,000	7,752,000	7,559,000	6,434,000
29 (概数値)	10a 当たり収量	kg	534	529	521	510	494	409
	収穫量(子実用)	t	7,822,000	7,752,000	7,634,000	7,470,000	7,243,000	5,984,000
	対前年比	%	97	97	97	96	96	93

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、全国の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、全国の予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

・ [都道府県別](#)の平成29年産水稲の作付面積及び収穫量については、次頁に掲載。

・ 「平成29年産水陸稲の収穫量」公表資料は下記アドレスにてご覧いただけます。

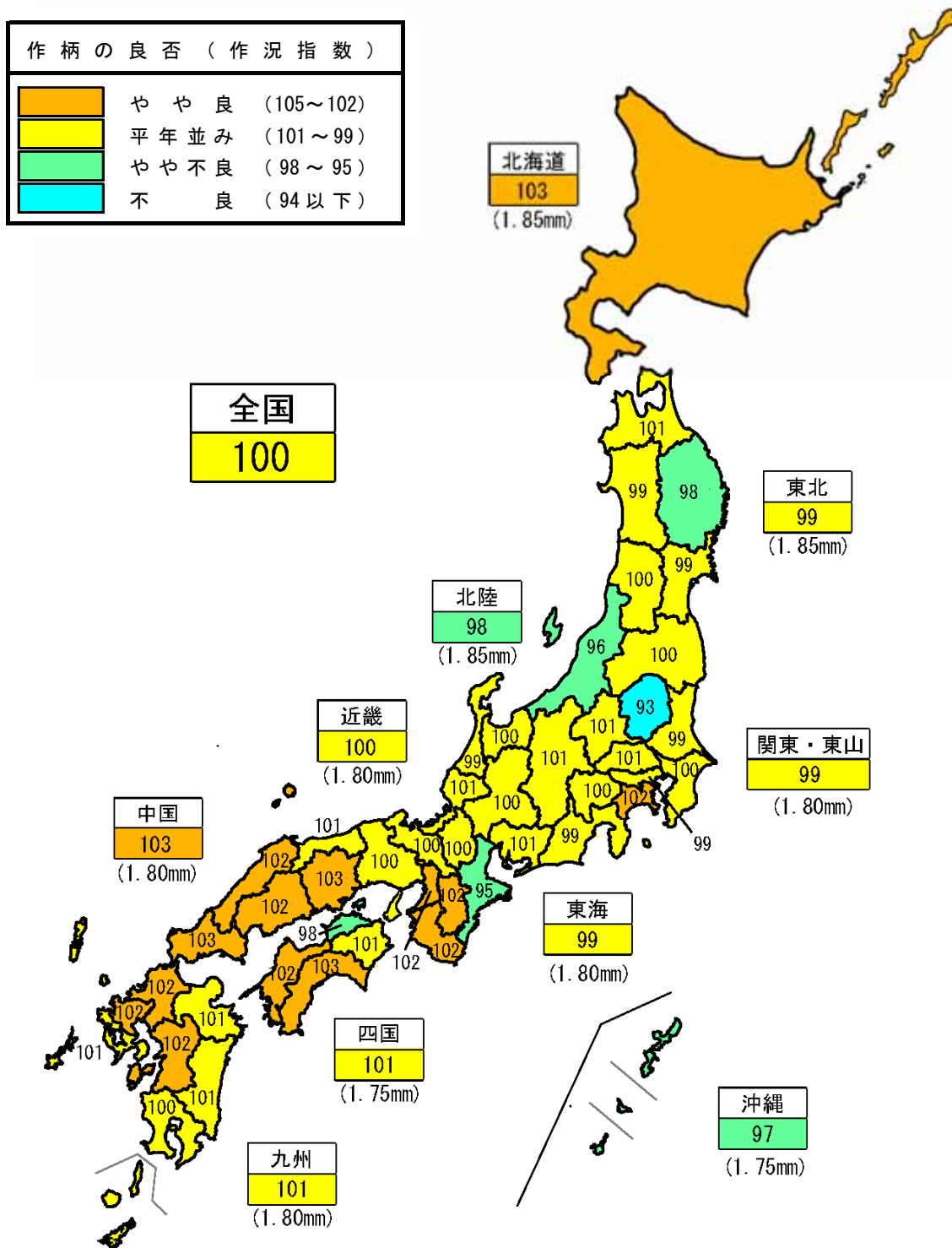
[http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html#suitou](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#suitou)

平成29年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 都 道 府 県	作付面積 (子実用) ①	10 a 当たり 収 量 ②	(参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別			収 穫 量 (子実用) ⑥=①×②	参 考		
			10 a 当たり 収 量 ③	10 a 当たり 平 年 収 量 ④	作 況 指 数 ⑤=③/④		主食用 作付面積 ⑦	収 穫 量 (主 食 用) ⑧=⑦×②	
			kg	kg					
全 国 (1)	1,465,000	534	517	518	100	7,822,000	1,370,000	7,306,000	(1)
北 海 道 (2)	103,900	560	546	530	103	581,800	98,600	552,200	(2)
青 森 (3)	43,400	596	576	573	101	258,700	38,000	226,500	(3)
岩 手 (4)	49,800	533	511	522	98	265,400	47,000	250,500	(4)
宮 城 (5)	66,300	535	512	519	99	354,700	63,500	339,700	(5)
秋 田 (6)	86,900	574	550	556	99	498,800	69,500	398,900	(6)
山 形 (7)	64,500	598	578	580	100	385,700	56,400	337,300	(7)
福 島 (8)	64,000	549	529	527	100	351,400	59,900	328,900	(8)
茨 城 (9)	68,100	525	510	515	99	357,500	66,400	348,600	(9)
栃 木 (10)	57,600	510	492	529	93	293,800	53,600	273,400	(10)
群 馬 (11)	15,500	499	483	479	101	77,300	13,900	69,400	(11)
埼 玉 (12)	31,600	494	478	475	101	156,100	30,700	151,700	(12)
千 葉 (13)	55,200	543	529	528	100	299,700	53,300	289,400	(13)
東 京 (14)	141	411	400	404	99	580	141	580	(14)
神 奈 川 (15)	3,090	509	488	478	102	15,700	3,090	15,700	(15)
新 潟 (16)	116,300	526	505	527	96	611,700	100,300	527,600	(16)
富 山 (17)	37,600	546	528	527	100	205,300	33,300	181,800	(17)
石 川 (18)	25,300	519	504	507	99	131,300	23,200	120,400	(18)
福 井 (19)	24,900	525	503	500	101	130,700	23,300	122,300	(19)
山 梨 (20)	4,960	549	531	533	100	27,200	4,880	26,800	(20)
長 野 (21)	32,300	629	616	607	101	203,200	31,300	196,900	(21)
岐 阜 (22)	21,900	488	479	478	100	106,900	21,500	104,900	(22)
静 岡 (23)	15,700	515	506	513	99	80,900	15,600	80,300	(23)
愛 知 (24)	27,500	512	503	499	101	140,800	26,600	136,200	(24)
三 重 (25)	27,400	480	466	489	95	131,500	26,800	128,600	(25)
滋 賀 (26)	31,700	517	504	506	100	163,900	30,000	155,100	(26)
京 都 (27)	14,700	510	501	502	100	75,000	14,100	71,900	(27)
大 阪 (28)	5,150	506	490	480	102	26,100	5,150	26,100	(28)
兵 庫 (29)	36,600	501	489	489	100	183,400	35,100	175,900	(29)
奈 良 (30)	8,610	521	508	500	102	44,900	8,580	44,700	(30)
和 歌 山 (31)	6,560	507	496	484	102	33,300	6,560	33,300	(31)
鳥 取 (32)	12,600	520	510	504	101	65,500	12,400	64,500	(32)
島 根 (33)	17,500	519	510	500	102	90,800	17,200	89,300	(33)
岡 山 (34)	30,100	544	531	514	103	163,700	29,100	158,300	(34)
広 島 (35)	23,700	534	524	513	102	126,600	23,100	123,400	(35)
山 口 (36)	20,300	521	508	492	103	105,800	19,300	100,600	(36)
徳 島 (37)	11,500	480	476	469	101	55,200	11,300	54,200	(37)
早期栽培 (38)	4,450	481	477	459	104	21,400	...	...	(38)
普通栽培 (39)	7,080	479	475	475	100	33,900	...	...	(39)
香 川 (40)	12,800	484	480	490	98	62,000	12,800	62,000	(40)
媛 愛 (41)	13,900	508	503	492	102	70,600	13,900	70,600	(41)
高 知 (42)	11,600	471	467	454	103	54,600	11,500	54,200	(42)
早期栽培 (43)	6,500	498	495	477	104	32,400	...	...	(43)
普通栽培 (44)	5,060	435	431	426	101	22,000	...	...	(44)
福 岡 (45)	35,700	509	488	477	102	181,700	35,100	178,700	(45)
佐 賀 (46)	24,600	531	511	503	102	130,600	24,400	129,600	(46)
長 崎 (47)	11,600	495	469	463	101	57,400	11,600	57,400	(47)
熊 本 (48)	33,300	527	508	497	102	175,500	32,200	169,700	(48)
大 分 (49)	21,000	506	483	480	101	106,300	20,900	105,800	(49)
宮 崎 (50)	16,300	499	485	482	101	81,300	15,000	74,900	(50)
早期栽培 (51)	6,460	494	486	470	103	31,900	...	...	(51)
普通栽培 (52)	9,870	503	485	490	99	49,600	...	...	(52)
鹿 児 島 (53)	20,400	486	468	469	100	99,100	19,600	95,300	(53)
早期栽培 (54)	4,460	472	464	434	107	21,100	...	...	(54)
普通栽培 (55)	16,000	490	468	478	98	78,400	...	...	(55)
沖 縄 (56)	727	301	297	305	97	2,190	727	2,190	(56)
第一期稲 (57)	537	354	350	363	96	1,900	...	...	(57)
第二期稲 (58)	190	152	147	160	92	289	...	...	(58)

- 注: 1 作付面積(子実用)とは、青刈り面積(飼料用米等を含む。)を除いた面積である。  
 2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた面積である。  
 3 全国の収穫量(子実用)及び収穫量(主食用)については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。  
 4 (参考)の農家等が使用しているふるい目幅で選別された③10a当たり収量、④10a当たり平年収量及び⑤作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。  
 5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

# 全国農業地域・都道府県別作況指数 【農家等が使用しているふるい目幅ベース】



注：1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85 mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80 mm、四国及び沖縄は1.75 mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

## (別冊)「資料編」の目次

I 契約・在庫情報	
(1) 平成27・28年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成28年7月末から29年6月末) (速報)	1
(2) 産地別事前契約数量 (累計、うるち米、平成26・27年産)	9
II 米の価格情報	
(1) 米の相対取引価格の推移 (通年平均価格)	12
(2) 業者間取引の状況	15
① 日本コメ市場 (随時取引の結果)	
② 日本コメ市場・クリスタルライス (取引会の結果)	
③ (株)加工用米取引センターの取引結果	
④ 米の現物市場の状況	
III 主食用米以外 (輸出を含む)	
(1) 加工用米及び新規需要米の取組状況等	18
① 加工用米の生産量	
② 新規需要米の用途別認定状況	
③ 加工用米・新規需要米等の取組状況 (平成29年産、都道府県別)	
(2) 飼料用米のマッチングの取組状況、配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	20
(3) 政府備蓄米の運営	21
備蓄米の買入入札の結果 (落札実績) (平成23~29年産)	
(4) 商業用の米の輸出量及び金額の推移	22
(5) 2016年の主な増加要因 (輸出業者等からのヒアリング結果による)	23
(6) 米菓の輸出量及び金額の推移	24
(7) 日本酒 (清酒) の輸出量及び金額の推移	25
IV 消費動向	
(1) 米の消費動向 (米穀機構による調査)	26
(2) 小売価格の推移 (POSデータ、主な銘柄)	29
V その他	
(1) 米取引関係者の判断 (米穀機構による調査、平成29年12月分)	30
(2) 平成28年産水陸稲の収穫量	35
(3) 水稲作付面積及び収穫量等の年次別推移 (全国)	39
(4) 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、 10a 当たり収量及び収穫量 (子実用) の年次別推移 (全国)	39
(5) 麦・大豆の需要情報	42
① 30年産麦の産地別銘柄別入札結果	
② 28年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
(6) 野菜等の需給情報	48
(7) 米の安定取引研究会報告書の概要	51
(8) 各都道府県農業再生協議会等が作成した平成30年産主食用米の作付方針	52

米に関するマンスリーレポート (本編・資料編) は、農林水産省のホームページからもご覧いただけます。

(URL) <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

また、「米に関するマンスリーレポートの活用について」を農林水産省のホームページに掲載いたしましたので以下URLを参照ください。

(URL) [http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/attach/pdf/kome\\_seisaku\\_kaikaku-34.pdf](http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/attach/pdf/kome_seisaku_kaikaku-34.pdf)



業務用途への安定取引に向けた

# 米マッチングフェア2017

**産地**  
大規模生産法人、農協等

**実需者**  
中食・外食事業者等

**会場無料**  
※予約は必ずお申し込みください

中食・外食事業者等の皆様へ

【開催時期】  
**平成29年9月～平成30年2月**

12月以降の会場、申込みについては  
右の欄の他、下記ホームページをご覧ください。  
米マッチングフェア2017 <https://kome-matching.com/>

家庭内での米の消費が減る一方で、中食・外食等における米の需要は伸びており、このような業務用途の米は、今後も堅調な需要が見込まれます。

平成30年産米から行政による生産数量目標の配分がなくなると、今後一層、米産地の法人や農協等がユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、当該事業者のニーズに応じた生産を行い、複数年契約や播種前契約を締結するなど安定した取引につなげていくことが重要です。

このような取引の拡大に向けて、業務用途への安定取引に取り組みたい米産地と中食・外食事業者等とのマッチングを行う「米マッチングフェア2017」を全国各所で開催します。

皆様、ぜひこのマッチングイベントに参加し、安定した米の販路を開拓いただけますか？

主催 株式会社グレイン・エス・ピー  
 注 株式会社グレイン・エス・ピーは、全国稲作協会の傘下(公社)日本穀物連合(公社)日本米穀流通協会(一社)日本米穀流通協会(一社)日本米穀流通協会(一社)の傘下で活動しています。  
 ※本イベントは、農林水産省補助事業(平成29年度米穀関係・需需拡大支援事業)の安定取引拡大支援事業の下で(株)グレイン・エス・ピーが行います。

お問い合わせ

株式会社グレイン・エス・ピー  
米マッチングフェア2017事務局・末田、小林

〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル3F  
Tel:03-3816-0672 Fax:03-3816-0708  
E-mail:kome-matching@grainsp.co.jp

## 展示商談会・セミナー(東京・大阪) 各2日間

【開催スケジュール】 **平成29年12月以降に開催のもの**  
**東京会場** TRC東京流通センター (東京都大田区平和島6-1-1)  
**平成30年2月6日(火)・7日(水)**

**大阪会場** マイドームおおさか (大阪府大阪市中央区本町橋2-5)

**平成29年12月12日(火)・13日(水)**

**各地展示商談会** 10:00～16:00(売り手 約35ブース/日)

### 展示商談会の内容

- 商談コーナー (個別商談のコーナーを用意)
- 出展紹介コーナー (出展者ご自薦のお米紹介、試食等)

**セミナー** 1部 11:00～12:00 2部 14:00～15:00(各100名)

### セミナー

事前契約の成功事例、実需者に求められる米とは等、豊富な経験を持つ方々の講演を予定

## 展示商談会・セミナー+現地交流会 各2日間

### 【開催スケジュール】

**金沢会場** 金沢流通会館 (石川県金沢市問屋町2丁目61番)

**平成29年12月7日(木)・8日(金)**

**1日目** 各展示商談会 10:00～16:00(売り手 約25ブース/日)  
 セミナー 1部 11:00～12:00 2部 14:00～15:00

### 展示商談会の内容

- 商談コーナー (個別商談のコーナーを用意)
- 出展紹介コーナー (出展者ご自薦のお米紹介、試食等)

### セミナー

事前契約の成功例、実需者に求められる米とは等、豊富な経験を持つ方々の講演を予定

**2日目** **現地交流会** 10:00～16:00 50名(1日目の開催地から(バスで現地へ移動します)  
 (産地の要望状況により時間は変更する場合があります)

### 現地交流会

現地の圃場、ライスセンター等を見学し、現地の生産者や農協関係者等との意見交換を行い取引の商談を深めていきます。

## 「米粉ソング」がリリースされました

農林水産省では、お米の消費を増やすため「米粉」の利用拡大に力を入れており、その取組の一環として、この度（株）テイチュエンタテインメントとタイアップし、日本の米粉を応援する「米粉ソング」をリリースする運びとなりました。



本作品は著作権者の意向により、米粉利用を広める目的であれば、ネット配信、店頭での演奏は「無料」にてご利用可能となっています。

詳細は、以下URLを参照ください。

→ <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/komeko/song/index.html>